



新型コロナウイルスワクチンの 接種体制確保について

自治体説明会⑤

令和3年4月12日
厚生労働省 健康局 健康課 予防接種室

1. 新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保について⑤

2. V-SYSについて⑤

1. スケジュール

2. ワクチン分配

3. 安全なワクチン接種に向けた取組

4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)

5. 国民への情報発信

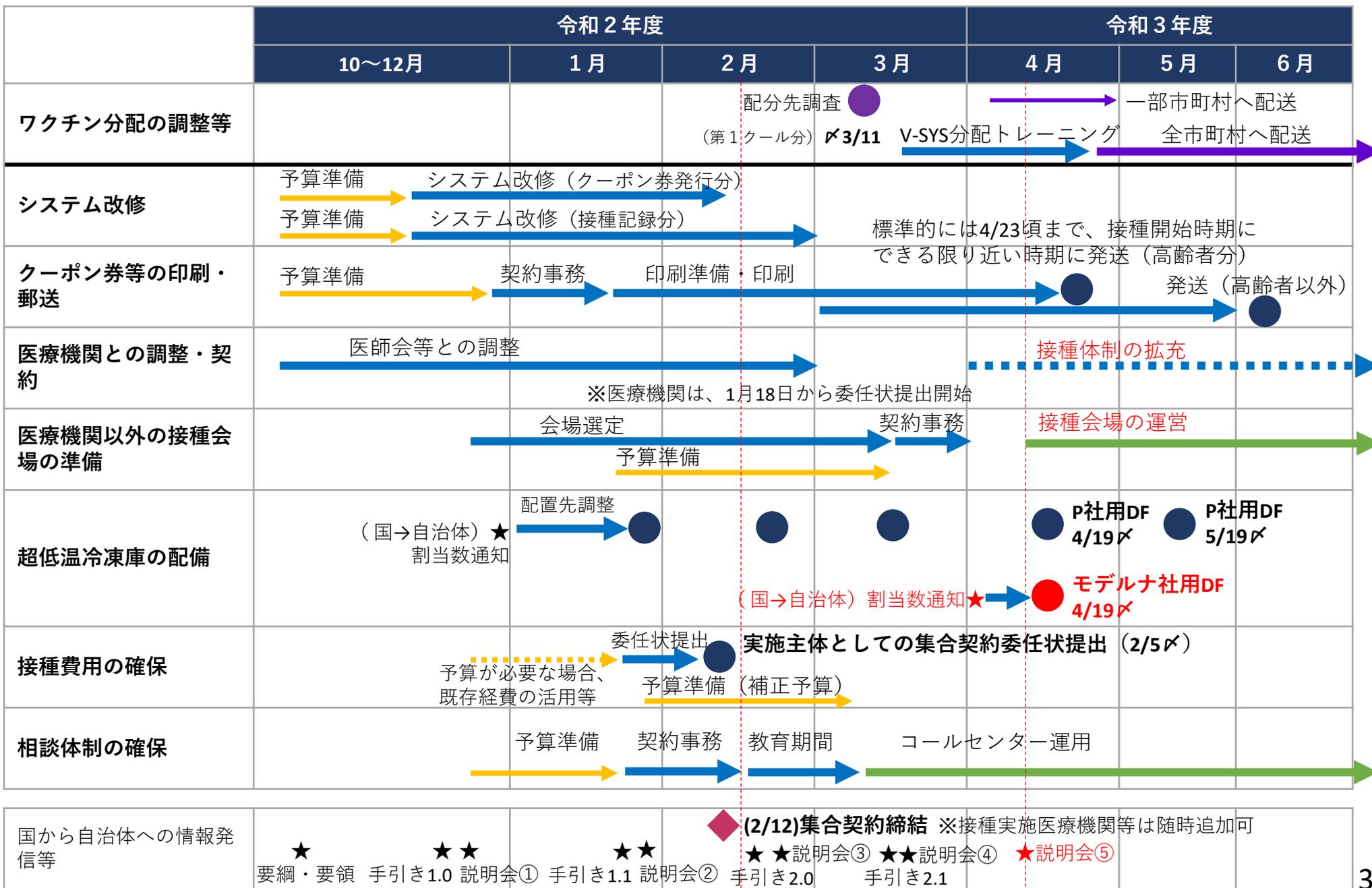
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務

7. 令和3年度の交付申請

8. 各自治体の準備状況

体制確保に係る市町村準備スケジュール（イメージ）

★更新★



体制確保に係る都道府県準備スケジュール（イメージ）

★更新★

	令和2年度				令和3年度	
	10～12月	1月	2月	3月	4月	5月
人員体制の整備 （会計年度任用職員契約、外部委託含む）	庁内人員体制の確保 任用職員等の募集					
ワクチン等の流通調整の準備	(12/14)★ 卸連に通知 地域担当卸決定 (1/25報告済)					
医療従事者等への接種の実施体制確保	医療関係団体と調整 被接種者数の把握 (~2/17) (都道府県→市町村)★ 医療従事者等の接種実施機関を情報提供 (~1/28) 配分先調査 (第1回) 2/24 (第2回) 3/15 医療従事者等への接種実施機関が集合契約に手挙げしているか確認 医療従事者等への先行接種・優先接種に向けた配送					
相談体制の確保	予算準備 契約事務 教育期間 コールセンター運用					
国から自治体への情報発信等	(10/23)★ 要綱・要領 ★★ 手引き1.0 説明会① ★★ 手引き1.2 説明会② ◆ (2/12)集合契約締結 ※接種実施医療機関等は随時追加可 ★★説明会③ 手引き2.0 ★★説明会④ 手引き2.1 ★説明会⑤					

1. スケジュール
- 2. ワクチン分配**
3. 安全なワクチン接種に向けた取組
4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)
5. 国民への情報発信
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務
7. 令和3年度の交付申請
8. 各自治体の準備状況

ファイザー社ワクチンの配送スケジュールについて①

医療従事者等への接種に向けた供給見通し

○ 1 回目の接種分

- ・ 3/1の週 500箱、3/8の週 500箱、3/22の週 200箱、3/29の週 200箱、4/12の週 1,200箱、4/19の週 1,200箱
※ここまでの合計で、当初見込んでいた約370万人分の1回目接種分を完了できる見込み

・ **5月10日の週1,000箱程度（1回目接種・2回目接種分の合計）を供給し、対象者が約480万人になると見込んで、必要量の配送を完了できる見込み**

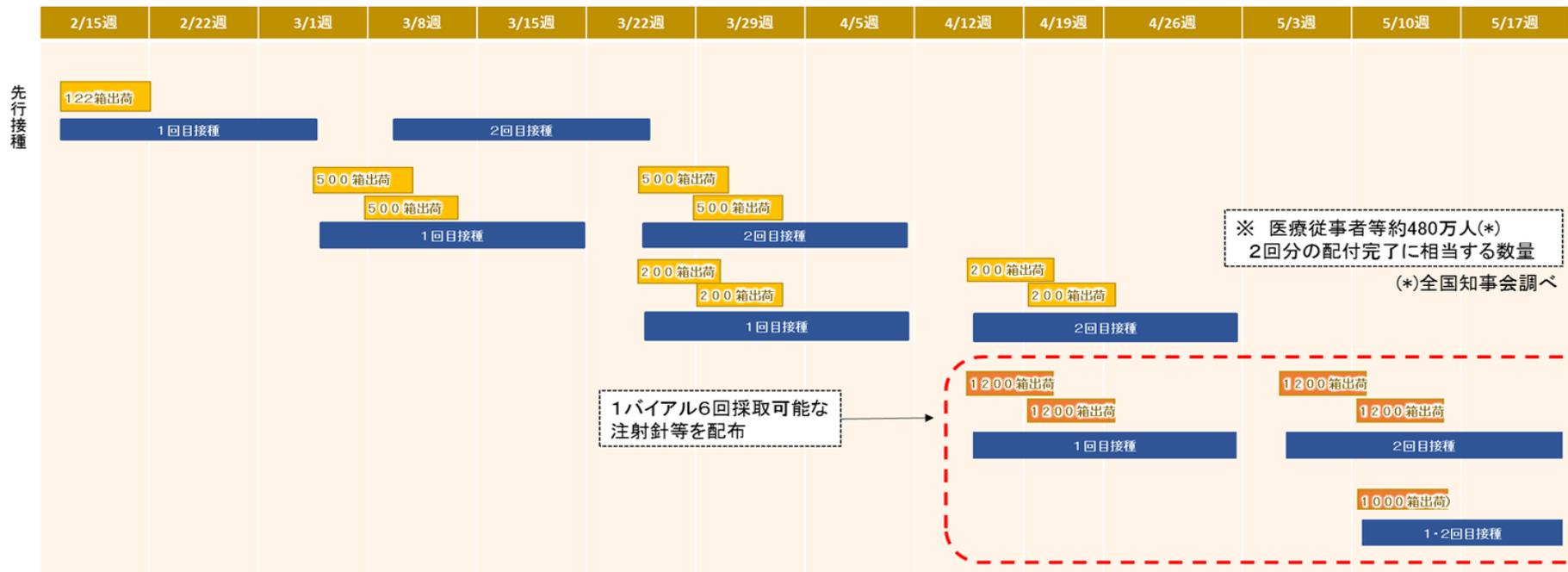
○ 2 回目の接種分

- ・ 3/22の週 500箱、3/29の週 500箱、4/12の週 200箱、4/19の週 200箱、5/3の週1,200箱、5/10の週1,200箱

・ **5月10日の週1,000箱程度（1回目接種・2回目接種分の合計）を供給し、対象者が約480万人になると見込んで、必要量の配送を完了できる見込み**

新型コロナワクチン配送スケジュール

令和3年4月8日時点

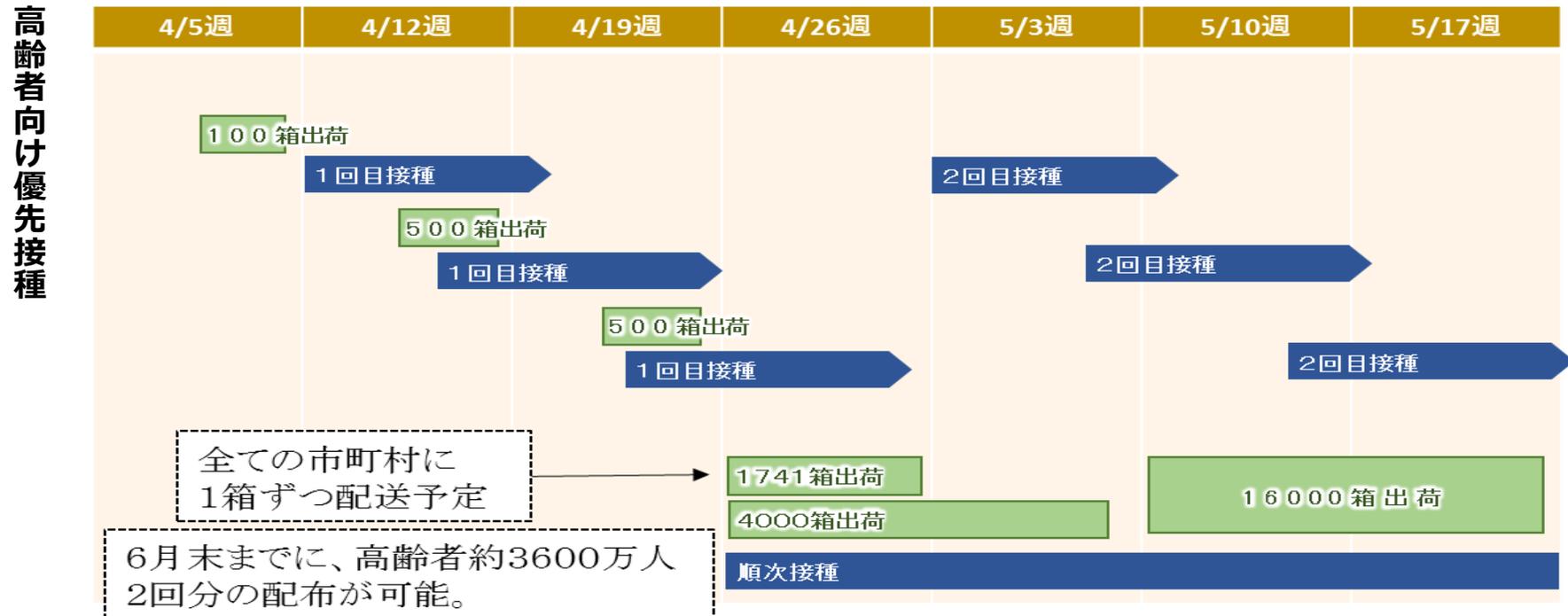


住民への接種に向けた供給見通し

- ・ 4/5の週 100箱（各都道府県2箱、東京・神奈川・大阪は4箱）
- ・ 4/12の週 500箱（各都道府県10箱、東京・神奈川・大阪は20箱）
- ・ 4/19の週 500箱（各都道府県10箱、東京・神奈川・大阪は20箱）
- ・ 4/26の週 1,741箱（全ての市区町村に1箱）
- ・ 5/9までに 4,000箱
- ・ 5/10の週と5/17の週の合計 16,000箱
- ・ 5/24の週と5/31の週の合計 16,000箱以上
- ・ 以降も、各クール2週間かけて、同程度の量の出荷を行う。
- ・ **6月末まで 高齢者約3,600万人の2回接種分の配布が可能**

新型コロナワクチン配送スケジュール

令和3年4月8日時点



高齢者向け接種に係るV-SYSによる割り当て手続きのスケジュール

第5クール (PF05)

	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0	2 1	2 2	2 3	2 4	2 5	2 6	2 7	2 8	2 9	3 0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
医療機関等	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■																												
国										■			■																									
都道府県											■	■							■																			
市町村															■	■	■																					

第6クール (PF06)

医療機関等																																							
国																																							
都道府県																																							
市町村																																							

クール名称	納入希望量登録 【医療機関】	割当て期限 【国】	割当て期限 【都道府県】	確定処理期限 (データロック) 【国】	割当て期限 【市町村】	確定処理期限 (データロック) 【都道府県】
第5クール(PF05)	4/12(月)10時～ 4/21(水)15時	4/21(水) 24時	4/23(金) 17時	4/24(土)中	4/28(水) 12時	4/30(金) 15時
第6クール(PF06)	4/26(月)10時～ 5/6(木)15時	5/7(金) 17時	5/11(火) 17時	5/11(火)中	5/17(月) 12時	5/18(火) 15時
第7クール(PF07) 以降	前クールの 2週間後	同左	同左	同左	同左	同左

※スケジュールについて、今後変更する場合は改めて変更後の日時をお知らせする

1. スケジュール
2. ワクチン分配
3. **安全なワクチン接種に向けた取組**
4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)
5. 国民への情報発信
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務
7. 令和3年度の交付申請
8. 各自治体の準備状況

- 現場で予診を行う医師や、予診票の確認等に従事する職員等に予診時に参考にしていただけるよう、自治体向けに「新型コロナワクチン 予診票の確認のポイント」を公表した。

新型コロナワクチン

予診票の確認のポイント

Ver 1.0

(令和3年3月26日版)

厚生労働省
健康局健康課予防接種室

目次

1	新型コロナワクチンの接種を初めて受けますか。	2
2	現時点で住民票のある市町村と、クーポン券に記載されている市町村は同じですか。	2
3	「新型コロナワクチンの説明書」を読んで、効果や副反応などについて理解しましたか。	2
4	接種順位の上位となる対象グループに該当しますか。	3
5	現在何らかの病気にかかって治療（投薬など）を受けていますか。	3
6	その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいと言われましたか。	3
7	最近1か月以内に熱が出たり、病気にかかったりしましたか。	4
8	今日、体に具合が悪いところがありますか。	4
9	けいれん（ひきつけ）を起こしたことがありますか。	4
10	薬や食品などで、重いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがありますか。	5
11	これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。	6
12	現在妊娠している可能性（生理が予定より遅れているなど）はありますか。または、授乳中ですか。	6
13	2週間以内に予防接種を受けましたか。	6
14	今日の予防接種について質問がありますか。	7
	・ 予診票の取り扱いに関するその他の事項	7

※1～4、13は事務職員等が確認可能です。その他の項目も、記入の有無などの確認を事務職員等が行うことができます。

5～12、14は、最終的に医師が確認した上で接種を判断する必要があります。こうした項目の記載内容を、医師以外の医療従事者が予め確認することで、医師の予診の時間が短縮されと考えられます。

10 薬や食品などで、重いアレルギー症状（アナフィラキシーなど）を起こしたことがありますか。

確認のポイント

接種するワクチンの成分に対し、重度の過敏症の既往のある人は、接種不適合者に該当します。

1回目の接種でアナフィラキシーを起こした人は、2回目の接種はできません。

食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎（花粉症含む）、蕁麻疹、アレルギー体質等だけでは、接種不適合者にはならず、接種するワクチンの成分に関係のないものに対するアレルギーを持つ方も接種は可能です。

ただし、即時型のアレルギー反応の既往がある人は、接種要注意者として、接種後30分間の経過観察をします。

(解説)

ファイザー社のワクチンに含まれるポリエチレングリコールや、交差反応性が懸念されているポリソルベートを含む医薬品については、[医薬品医療機器総合機構 \(PMDA\) のホームページ](#)で検索することができます。また、ポリエチレングリコールは、大腸の検査をする時に用いる腸管洗浄剤、医薬品・医薬品添加物、ヘアケア製品、スキンケア製品、洗剤など、さまざまな用途に使用されています。

ポリエチレングリコールに対して重度の過敏症の既往が明らかな方は、接種不適合者に該当します。

ポリソルベートに対して重いアレルギー反応を起こしたことがある方への接種は、専門医による適切な評価とアナフィラキシーなどの重度の過敏症発症時の十分な対応ができる体制のもとで行うことが望ましいとされています。ポリソルベートは既存のワクチン（11参照）等の医薬品の他、乳化剤として様々な食品に用いられています。

なお、ポリエチレングリコールやポリソルベートを含む医薬品・製品は非常に多数存在するとともに、こうした医薬品・製品には他の成分も含まれていることから、実際には原因の特定に繋がらないことも多いと考えられます。そのため、様々なアレルギー歴について丁寧に聴取し、原因の特定に至っていない場合も含め、過去に何らかの医薬品や食品などで重いアレルギー症状を起こしたことがある方に対しては、十分注意をして接種の判断を行うとともに、接種後は30分間の経過観察を行います。

ファイザー社のワクチンのバイアルストッパーは天然ゴムラテックスで作られていないため、ラテックスアレルギーのある人にもワクチン接種は可能です。また、卵やゼラチンも含まれていないため、これらの物質にアレルギーのある人もワクチン接種は可能です。

これまでの予防接種で具合が悪くなった方については、11もご参照ください。

11 これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことはありますか。

確認のポイント

以前に予防接種による副反応の既往があれば、その使用ワクチンの成分（添加物を含む。）と実施しようとするワクチンの成分について共通性の確認も必要です。

1回目の接種でアナフィラキシーを起こした方は、2回目の接種はできません。アナフィラキシー以外の即時型のアレルギー反応がみられた方についても、接種の是非を慎重に判断します。

また、過去に迷走神経反射を起こしたことがある方は、接種後30分間の経過観察を行います。ベッドに臥床して接種することも迷走神経反射の予防法の1つです。

(解説)

ポリエチレングリコールを含むワクチンは、ファイザー社のワクチンが初めてです。

ポリエチレングリコールと交差反応性をもつと言われているポリソルベートを含むワクチンは、沈降13価肺炎球菌結合型ワクチン（プレベナー13）、インフルエンザHAワクチン「第一三共」、組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン（ガーダシル）、乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン（エンセバック）、5価経口弱毒生口タウイルスワクチン（ロタテック）、不活化ポリオワクチン（イモバックス）等です。即時型のアレルギー反応の既往歴が判明した場合は、接種要注者に該当する可能性があります。

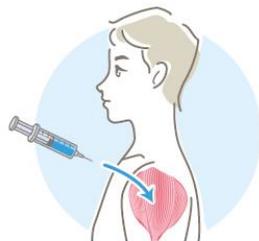
新型コロナワクチンの1回目接種後に遅発性の局所反応（例えば、紅斑、硬結、そう痒症）があっただけであれば、2回目接種は可能です。1回目接種後に遅発性の局所反応を経験した人が、2回目の接種後に同様の反応を起こすかどうかは不明です。新型コロナワクチンの1回目接種で、アナフィラキシー以外の即時型のアレルギー反応を起こした方については、10を参照し、接種を見合わせるか、重度の過敏症発症時の十分な対応ができる体制のもとで接種を行うかを、慎重に判断する必要があります。

安全な接種に向けた取組

- 研究班 (※) において新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種を安全に行うための注意点やポイントについて解説した動画を作成し、Youtubeの厚生労働省公式チャンネルで公開している。
- あわせて、要点をまとめたリーフレットも作成し、厚生労働省ホームページにおいて公開している。
※厚生労働行政推進調査事業費補助金“新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業”「ワクチンの有効性・安全性と効果的適用に関する疫学研究」

筋肉注射のポイント

新型コロナウイルスワクチンは筋肉注射です。
通常、三角筋の中央部に注射します。



被接種者ごとに、必ず手指消毒をしてください。
手袋をしている場合は、手袋をはずして手指消毒をしてから、新しい手袋を着用してください。

被接種者には腕を下におろし、リラックスした姿勢をとってもらいます。



穿刺部位の確認

注射部位は三角筋中央部です。肩峰から真下に3横指程度下の位置が目安になります。
接種部位が上方すぎると**ワクチン関連肩関節障害**を、下方すぎると**橈骨神経障害**を起こすリスクがあるので、注意が必要です。

*接種部位の目安として肩峰下の前後腋窩線を結ぶ線の高さを推奨する報告もあります。



薬液を注入



三角筋には大きな血管がないので、陰圧をかけて血液の逆流を確認する必要はありません。

シリンジと注射針が安定するように工夫して持ち、適度な速度で注入してください。

医療従事者のための新型コロナウイルスワクチンを安全に接種するための注意とポイント



動画

(<https://www.youtube.com/watch?v=rcEVMi2OtCY>)



リーフレット

(<https://www.mhlw.go.jp/content/000764700.pdf>)

- 高齢者や基礎疾患を有する者への接種開始に向け、搬送体制の確保についての連携の考え方について、3月31日に周知した。

搬送体制の確保に向けての連携の考え方

◆ 都道府県の役割

市町村が行う搬送先の調整・選定に当たり、必要な支援・調整を行う。例えば、以下の内容等が考えられる。

- ・ 都道府県医師会等の地域の医療関係者や、二次救急医療機関及び三次救急医療機関に対して、市町村が行う搬送先の調整・選定に協力するよう呼びかける。
- ・ 市町村が行う搬送先の調整・選定が、市町村内に受入可能な二次医療機関等を有しない市町村も含め、円滑に実施されるよう、地域の医療関係者、消防機関等が含まれる調整の場の提供等を行う。
- ・ 調整・選定に必要な情報提供（例：病院群輪番制の当番）等の支援を行う。

◆ 市町村の役割

都道府県、都道府県医師会等の地域の医療関係者や消防機関の協力を得ながら、地域の医療機関と調整を行い、搬送先の候補となる接種会場近傍の二次救急医療機関等を選定し、地域の医療関係者や消防機関と共有する。なお、医療機関が対応できる曜日や時間帯が限られる場合は、複数の二次救急医療機関等により接種日等に常時対応が可能となるよう調整する。接種会場の場所や、特に大規模な接種会場を設置する場合にあってはその開設日等の情報を、搬送先の候補となる医療機関、及び地域の医療関係者や消防機関の関係者と予め共有するなどの体制を確保する。

◆ 消防機関の役割

接種会場の場所等を把握するとともに、搬送が必要になった場合に備え、具体的な救急活動について、市町村等の関係者と予め協議し、速やかな搬送体制を確保する。搬送先医療機関の選定・調整に当たり、市町村等の関係者に必要な協力を行う。

- 第53回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会及び令和2年度第13回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会合同部会の検討結果を踏まえ、下記の留意事項について自治体に改めて周知した。

コロナウイルス修飾ウリジンRNA ワクチン（SARS-CoV-2）（コミナティ筋注）の接種に伴うアナフィラキシーの発生について

記

1. 本剤の接種にあたっては、予診時に、アレルギー疾患の既往や、アナフィラキシーを含む即時型のアレルギー反応の既往について適切に確認すること。
2. 報告された症例を踏まえると、アナフィラキシーを発症した場合であっても、早期に適切な処置が行われることにより、症状の重症化を回避することができると考えられるため、本接種後少なくとも15分間は被接種者の状態を観察する必要があること。また、過去にアナフィラキシーを含む重いアレルギー症状を引き起こしたことがある者については、接種後30分程度、状態の観察をする必要があること。
3. 被接種者にアナフィラキシー等の副反応がみられた際、速やかに適切な処置を実施し、必要に応じて発症者の速やかな医療機関への搬送を行うため、関係部局と連携の上、必要な体制を確保すること。

1. スケジュール
2. ワクチン分配
3. 安全なワクチン接種に向けた取組
4. **副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)**
5. 国民への情報発信
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務
7. 令和3年度の交付申請
8. 各自治体の準備状況

予防接種法に基づく医療機関からの副反応疑い報告状況

● コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）（ファイザー株式会社）

	推定接種者数 (回分)	副反応疑い報告数 (報告頻度)		
			うち重篤報告数 (報告頻度)	うち死亡報告数 (報告頻度)
報告件数	1,096,698	1,755	296	5
		0.16%	0.03%	0.00%
うち「関連あり」として報告		1,268	232	0
		0.12%	0.02%	0.00%
うち「アナフィラキシー」として報告		350		
		0.03%		

(令和3年4月4日現在)

(注)

- 「重篤」とは、①死亡、②障害、③それらに繋がるおそれのあるもの、④入院、⑤①～④に準じて重いもの、⑥後世代における先天性の疾病又は異常のものとされているが、必ずしも重篤でない事象も「重篤」として報告されるケースがある。
- 重篤報告数は、全報告数から、非重篤及び重篤度が不明な報告数を除いたもの。
- 表中の推定接種者数は、ワクチン接種円滑化システム（V-SYS）の接種実績に基づくもの。4月2日17時時点の情報を反映している。
- 報告数は、直近日曜日時点での情報により予防接種との因果関係が不明な事象も含めている。よって、詳細な情報が得られたことによって予防接種との因果関係が否定された事象は、表から除外され各件数が変わることがある。
- 報告数は副反応疑い報告の件数を集計したもの。1症例（1患者）で複数件の副反応疑い報告が提出される場合があるため、報告数と症例数（患者数）は一致しない。
- 同一の副反応疑い事例であっても、報告内容（転帰等）の更新等により複数回報告される場合がある。同一副反応疑い事例が複数回報告された場合は、集計時点で最後に報告された報告内容に基づき集計している。

医薬品医療機器等法に基づく製造販売業者からの副反応疑い報告状況

● コロナウイルス修飾ウリジンRNAワクチン（SARS-CoV-2）（ファイザー株式会社）

	推定接種者数 (回分)	副反応疑い報告数 (報告頻度)	
			うち死亡報告数 (報告頻度)
報告件数	1,096,698	344	2
		0.03%	0.00%
うち「アナフィラキシー」として報告		196	
		0.02%	

(令和3年4月4日現在)

(注)

- 製造販売業者からの報告は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第68条の10第1項に基づき、「重篤」と判断された症例について報告されたものである。なお、製造販売業者からの報告には、医療機関から報告された症例と重複している症例が含まれている。当該分類は、製造販売業者の評価に基づくものであり、PMDAが個別に医薬品との関連性を評価したものではない。
- 「重篤」とは、①死亡、②障害、③それらに繋がるおそれのあるもの、④入院、⑤①～④に準じて重いもの、⑥後世代における先天性の疾病又は異常のものとされているが、必ずしも重篤でない事象も「重篤」として報告されるケースがある。
- 報告された後、その後の調査等によって、報告対象でないことが確認され、報告が取り下げられた場合は、遡って各々の件数から当該症例を除いている。
- 製造販売業者からの報告には、複数の製造販売業者から重複して報告されている症例が含まれている可能性がある。
- 表中の推定接種者数は、ワクチン接種円滑化システム（V-SYS）の接種実績に基づくもの。4月2日17時時点の情報を反映している。
- 報告数は、直近日曜日時点での情報により予防接種との因果関係が不明な事象も含めている。よって、詳細な情報が得られたことによって予防接種との因果関係が否定された事象は、表から除外され各件数が変わることがある。
- 報告数は副反応疑い報告の件数を集計したもの。1症例（1患者）で複数件の副反応疑い報告が提出される場合があるため、報告数と症例数（患者数）は一致しない。
- 同一の副反応疑い事例であっても、報告内容（転帰等）の更新等により複数回報告される場合がある。同一副反応疑い事例が複数回報告された場合は、集計時点で最後に報告された報告内容に基づき集計している。

国内外の死亡例の報告状況について

第55回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第1回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）

資料
1 - 4
(抜粋)

2021(令和3)年4月9日

○ 今回の審議会（4月4日時点、47日間）までに、死亡として報告された事例は6件（100万人接種あたり6.6件、100万回接種あたり5.5件）であった。

国	集計期間	報告件数/推定接種回数	100万回または人接種あたりの報告件数	出典・備考
日本	2021年2月17日 ～2021年4月4日	6件/913,341人接種 6件/1,096,698件接種 (1回目913,341接種、2回目183,357接種)	6.6件/100万人接種 5.5件/100万回接種	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_sesshujisseki.html
米国	2020年12月14日 ～2021年1月13日	113件/13,794,904回接種 ※2/3が長期ケア施設の住人	8.2件	First Month of COVID-19 Vaccine Safety Monitoring — United States, December 14, 2020-January 13, 2021(Morbidity and Mortality Weekly Report February 26, 2021 / Vol. 70 / No. 8) https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/70/wr/mm7008e3.htm?s_cid=mm7008e3_w
	2020年12月14日 ～2021年2月16日	510件/28,374,410人接種	18.0件 ※100万人接種あたりの報告件数	ワクチン諮問委員会（ACIP）における米国疾病予防管理局（CDC）会議資料 2021年3月1日 https://www.cdc.gov/vaccines/acip/meetings/downloads/slides-2021-02/28-03-01/05-covid-Shimabukuro.pdf
英国	2020年12月9日 ～2021年3月21日	283件/約1300万回接種 (1回目約1080万回、2回目約220万回接種)	26.2件	Coronavirus Vaccine - summary of Yellow Card reporting (MHRA 2021年4月1日) https://www.gov.uk/government/publications/coronavirus-covid-19-vaccine-adverse-reactions

日本のアナフィラキシーの報告状況について

第55回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第1回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）

資料
1-7
(抜粋)

2021(令和3)年4月9日

医療機関からアナフィラキシーとして報告された件数

国	集計期間	報告件数/推定接種回数	100万回接種あたりの報告件数	備考
日本	2021年2月17日 ～3月11日	35件/ 181,184回接種 (副反応疑い報告のうちアナフィラキシーとして報告された件数)	193件	(推定接種回数) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_sesshujisseki.html
	2021年2月17日 ～3月21日	181件/ 578,835回接種 (副反応疑い報告のうちアナフィラキシーとして報告された件数)	313件	(報告件数) ○資料1-5
	2021年2月17日 ～4月4日	350件/ 1,096,698回接種 (副反応疑い報告のうちアナフィラキシーとして報告された件数)	319件	

ブライトン分類に基づき評価された件数

国	集計期間	報告件数/推定接種回数	100万回接種あたりの報告件数	備考
日本	2021年2月17日 ～3月11日	10件/ 181,184回接種 (ブライトン分類1-3の報告)	55件	(推定接種回数) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_sesshujisseki.html
	2021年2月17日 ～3月21日	47件/ 578,835回接種 (ブライトン分類1-3の報告)	81件	(報告件数) ○資料1-5
	2021年2月17日 ～4月4日	79件/ 1,096,698回接種 (ブライトン分類1-3の報告)	72件	

ブライトン分類におけるアナフィラキシーの症例定義

レベル	基準
必須基準	突発性の発症 徴候および症状の急速な進行 2つ以上の多臓器の症状
レベル1	1つ以上のメジャー皮膚症状および1つ以上のメジャー循環器症状（または/および1つ以上のメジャー呼吸器症状）
2-1	1つ以上のメジャー循環器症状および1つ以上のメジャー呼吸器症状
レベル2	2-2 1つ以上のメジャー循環器症状（または1つ以上のメジャー呼吸器症状）および1つ以上の異なる器官（循環器および呼吸器は除く）で1つ以上のマイナー症状
2-3	1つ以上のメジャー皮膚症状および1つ以上のマイナー循環器症状（または/および1つ以上のマイナー呼吸器症状）
レベル3	1つ以上のマイナー循環器症状（または呼吸器症状）および2つ以上の異なる器官/分類から1つ以上のマイナー症状
レベル4	十分な情報が得られておらず、症例定義に合致すると判断できない
レベル5	アナフィラキシーではない（診断の必須条件を満たさないことが確認されている）

臓器	メジャー症状	マイナー症状
皮膚/粘膜症状	<input type="checkbox"/> 全身性蕁麻疹 もしくは 全身性紅斑 <input type="checkbox"/> 血管浮腫（遺伝性のものを除く）、局所もしくは全身性 <input type="checkbox"/> 発疹を伴う全身性掻痒感	<input type="checkbox"/> 発疹を伴わない全身性掻痒感 <input type="checkbox"/> 全身がちくちくと痛む感覚 <input type="checkbox"/> 有痛性眼充血 <input type="checkbox"/> 接種局所の蕁麻疹
循環器症状	<input type="checkbox"/> 測定された血圧低下 <input type="checkbox"/> 非代償性ショックの臨床的な診断（以下の3つ以上） <ul style="list-style-type: none"> ・ 頻脈 ・ 毛細血管再充満時間（3秒より長い） ・ 中枢性脈拍微弱 ・ 意識レベル低下もしくは意識消失 	<input type="checkbox"/> 末梢性循環の減少（以下の2つ以上） <ul style="list-style-type: none"> ・ 頻脈 ・ 血圧低下を伴わない毛細血管再充満時間（3秒より長い） ・ 意識レベルの低下
呼吸器症状	<input type="checkbox"/> 両側性の喘鳴（気管支痙攣） <input type="checkbox"/> 上気道性喘鳴 <input type="checkbox"/> 上気道腫脹（口唇、舌、喉、口蓋垂、喉頭） <input type="checkbox"/> 呼吸窮迫（以下の2つ以上） <ul style="list-style-type: none"> ・ 頻呼吸 ・ 補助的な呼吸筋の使用増加（胸鎖乳突筋、肋間筋など） ・ 陥没呼吸 ・ チアノーゼ ・ 喉音発生 	<input type="checkbox"/> 持続性乾性咳嗽 <input type="checkbox"/> 嘔声 <input type="checkbox"/> 咽喉閉塞感 <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水 <input type="checkbox"/> 喘鳴もしくは上気道性喘鳴を伴わない呼吸困難
消化器症状	—	<input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 悪心 <input type="checkbox"/> 嘔吐
臨床検査	—	<input type="checkbox"/> 通常の上限以上の肥満細胞トリプターゼ上昇

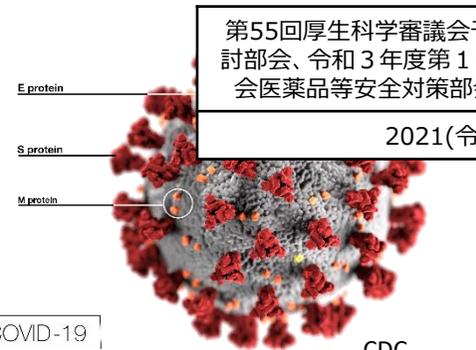
アナフィラキシーの診断必須条件として、①突然の発症、②徴候および症状の急速な進行、③2つ以上の多臓器の症状が挙げられている。皮膚症状、循環器症状、呼吸器症状、消化器症状別にメジャーおよびマイナー基準が記載されている。該当する症状の組合せで、カテゴリー分類する。

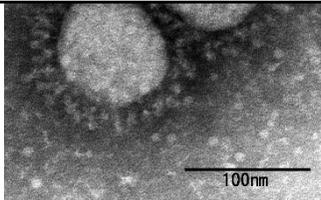
症例の確度は通常3段階に分類して決められる。レベル1は診断特異性が最も高く、レベル2は診断特異性が中位、レベル3になれば診断特異性は低くなるが、ここまではアナフィラキシーと定義される、診断定義に合致しないものとして、レベル4は分類のための十分な情報が得られていないため、判断ができないもの、レベル5は必須条件を満たさないことが確認されているものとなっている。

令和2年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)

新型コロナワクチンの投与開始初期 の重点的調査 (コホート調査)

課題番号 20HA2013

 COVID-19 CDC	第55回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第1回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会 (合同開催)	資料 2
	2021(令和3)年4月9日	



国立感染症研究所ホームページ



健康観察日誌集計の中間報告 (3)



代表研究者

伊藤 澄信 順天堂大学医学部 臨床研究・治験センター、臨床薬理学 客員教授

分担研究者

楠 進 地域医療機能推進機構・本部・理事

土田 尚 国立病院機構本部総合研究センター 治験研究部長

金子 善博 労働者健康安全機構本部本部 研究ディレクター

飛田 護邦 順天堂大学革新的医療技術開発研究センター 先任准教授

研究事務局

順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研究・治験センター

予防接種・ワクチン分科会副反応疑い検討部会 & 医薬品等安全対策部会安全対策調査会 2021/4/9



新型コロナウイルスワクチンの投与開始初期の 重点的調査（コホート調査）

リスクコミュニケーションの一環として治験と同様の方法で、1－2万人の安全性情報を収集し、厚労省の専門家会議を通じて、国民の皆様に本ワクチンの安全性情報を発信することを目的とする。免疫を惹起することに伴う発熱、倦怠感などの副反応疑いの情報を正確に把握し、医療機関の業務と両立したワクチン接種が遂行できるように情報発信する。

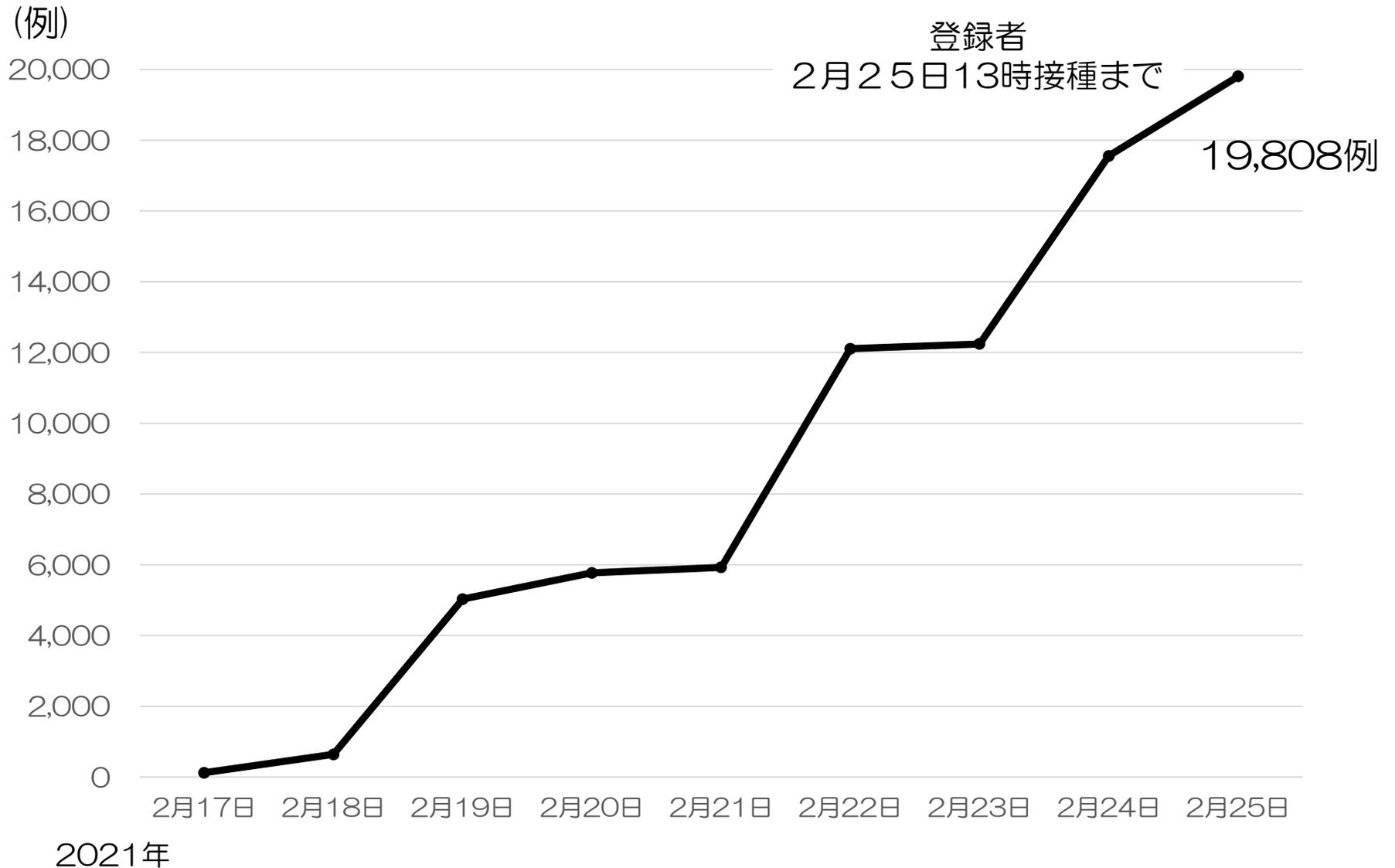
調査内容： SARS-CoV-2 ワクチン接種者の最終接種4週後までの安全性

- 体温、接種部位反応、全身反応（日誌）
- 主たる目的は副反応疑い、重篤なAE（因果関係問わず）
の
コホート調査による頻度調査
- NHO、JCHO、JOHASの職員
- 2万人調査すると0.015%（6,700人に一人）発現する副反応疑いが95%の可能性で捕捉できる（1万人なら0.03%、3,350人に一人）。



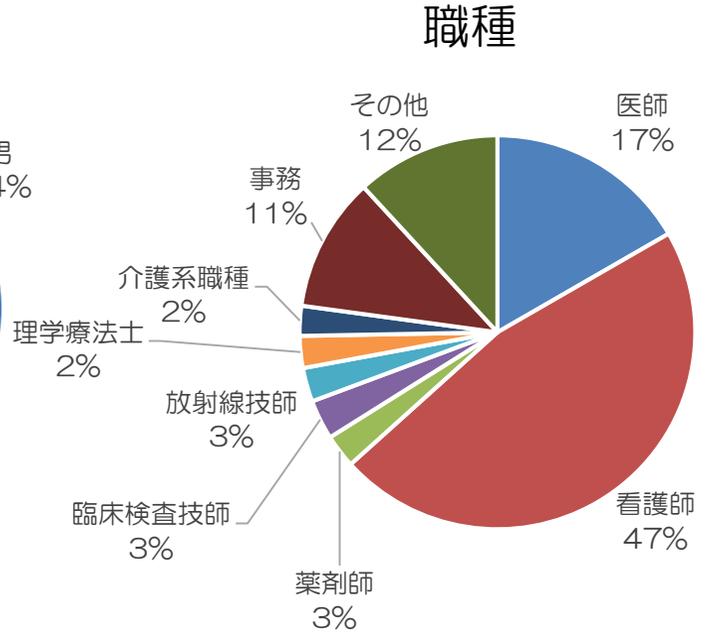
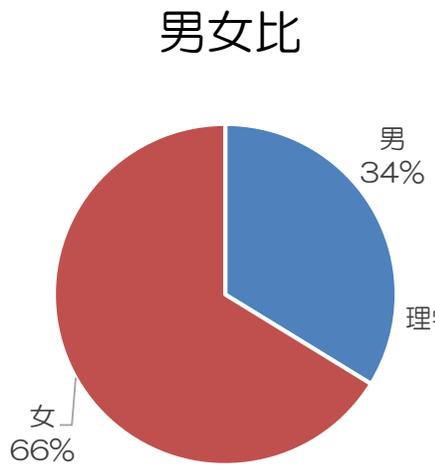
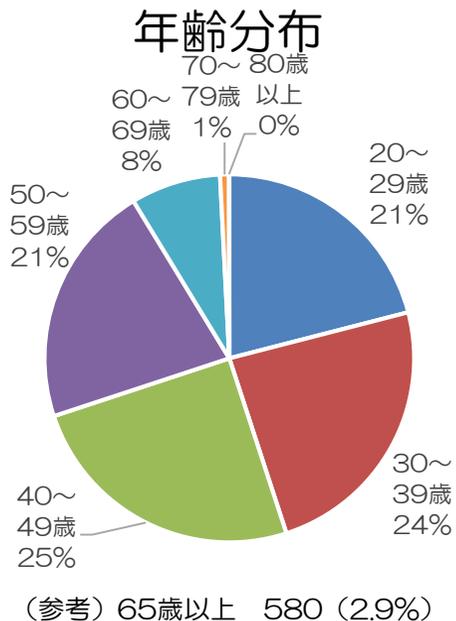
ワクチン接種者を対象とする前向き観察研究

被接種者数の推移（累計）



先行接種 被接種者の人口統計学的特性

被接種者数 19,808例



治療中疾患	人数	(割合%)
高血圧	1,723	8.7%
脂質異常症	999	5.0%
糖尿病	411	2.1%
気管支喘息	430	2.2%
アトピー性皮膚炎	567	2.9%
その他	2,588	13.1%
なし	14,534	73.4%

既往歴	人数	(割合%)
気管支喘息	1,939	9.8%
悪性腫瘍	411	2.1%
いずれもなし	17,493	88.2%

n=19,808

n=19,808

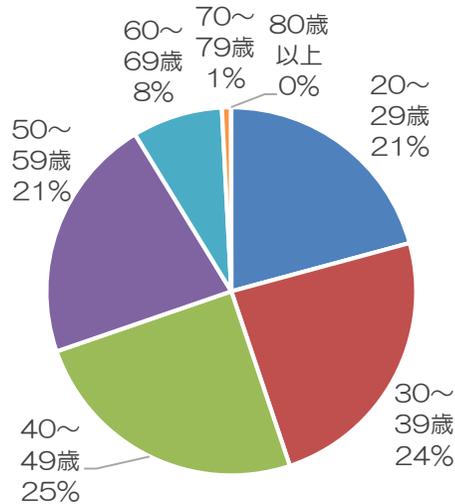
複数疾患をお持ちの方もいるため合計は100%ではありません



2回目被接種者の人口統計学的特性

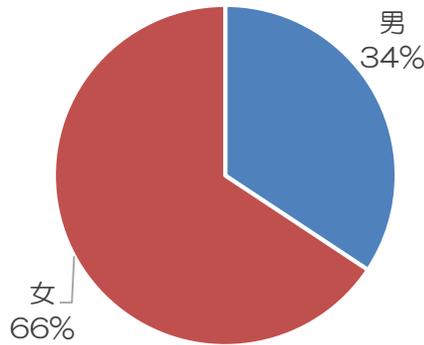
被接種者数 19,482例 4月6日集計

年齢分布

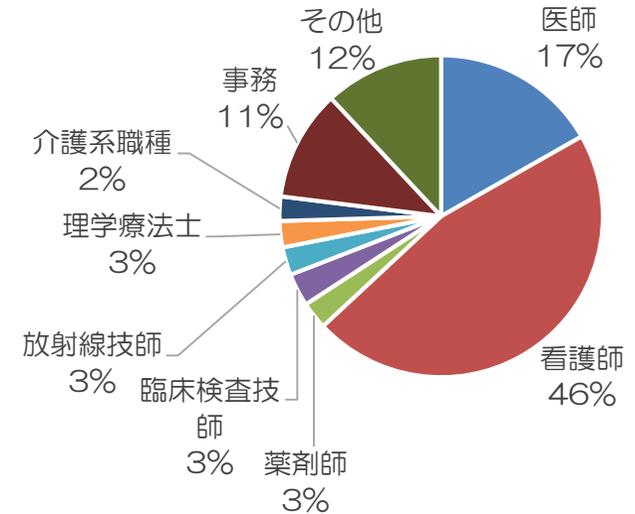


(参考) 65歳以上 482 (3.0%)

男女比



職種



治療中疾患	人数	割合
高血圧	1,702	8.7%
脂質異常症	988	5.1%
糖尿病	403	2.1%
気管支喘息	420	2.2%
アトピー性皮膚炎	552	2.8%
その他	2,547	13.1%
なし	14,296	73.4%

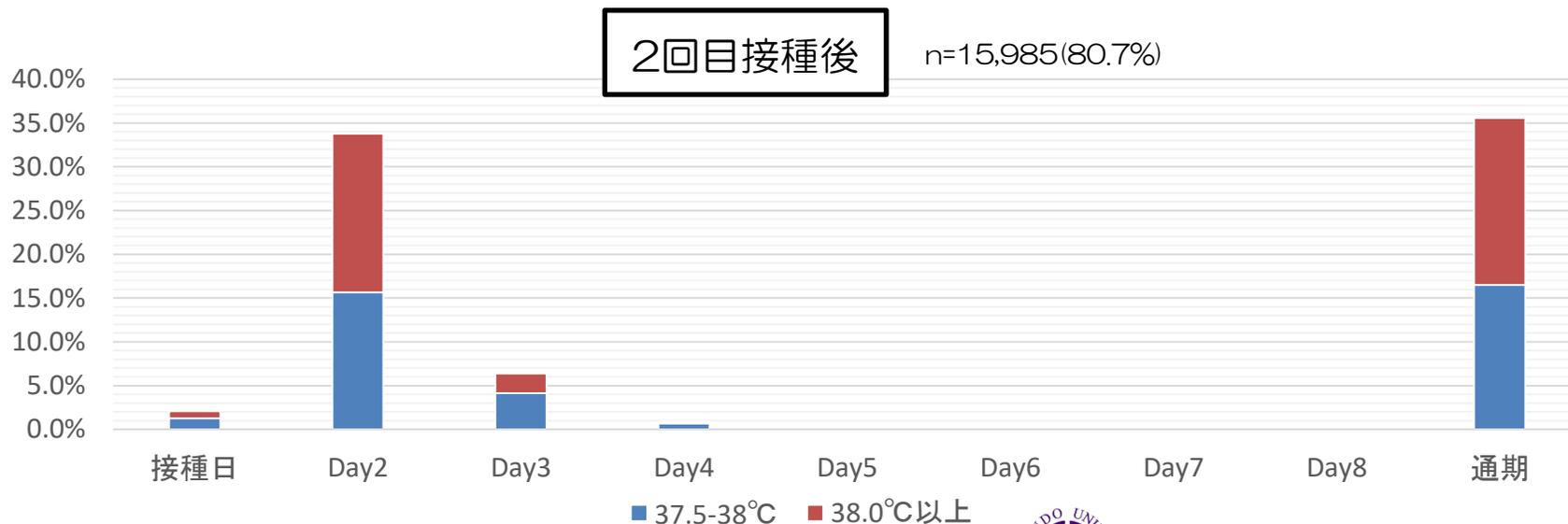
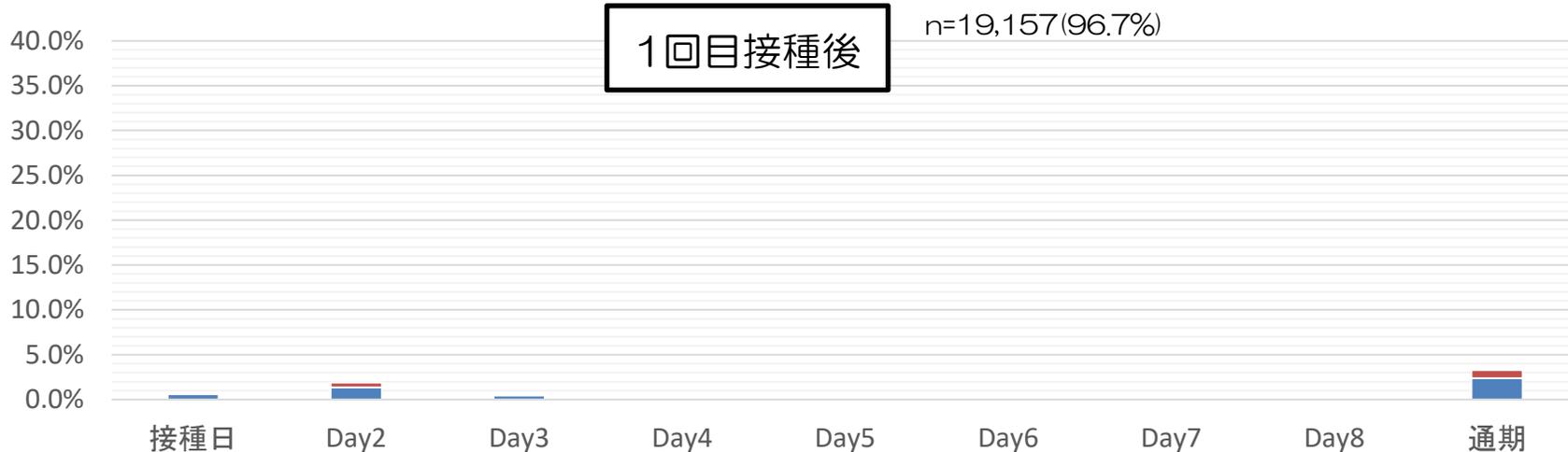
n=19,482

既往歴	人数	割合
気管支喘息	1,899	9.7%
悪性腫瘍	405	2.1%
いずれもなし	17,213	88.4%

n=19,482

複数疾患をお持ちの方もいるため合計は100%ではありません





■ 37.5-38°C ■ 38.0°C以上



局所反応（投与部位）のAEの重症度判断基準

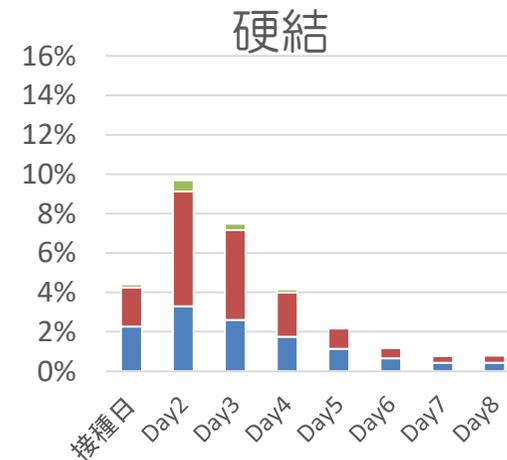
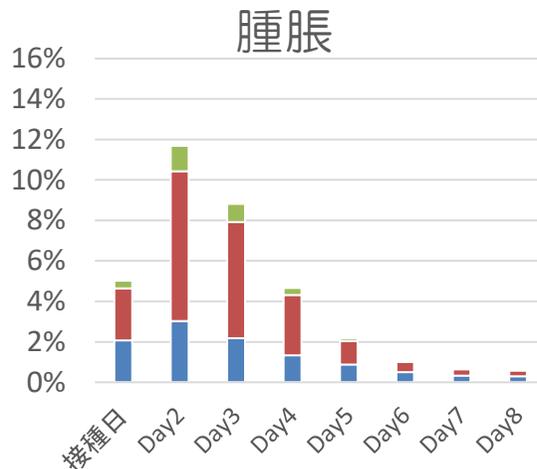
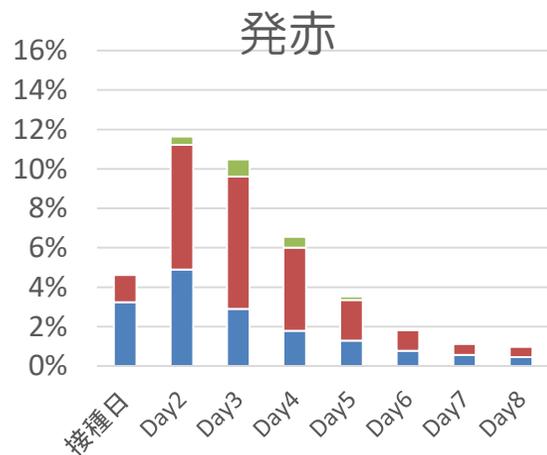
Grade AE名	1（軽度）	2（中等度）	3（高度）	4（重篤、生命の危険がある）
疼痛	痛みを感じるが、特に気にならない。	痛みを感じて鎮痛剤を1回服用した。	痛みを感じて鎮痛剤を2回以上服用した。	重症又は持続性の潰瘍、又は壊死、又は手術を要する。
発赤	長径が< 2.0 cm	長径が2.0 - 5.0 cm	長径が> 5.0 cm	
腫脹	長径が< 2.0 cm	長径が2.0 - 5.0 cm	長径が> 5.0 cm	
硬結	長径が< 2.0 cm	長径が2.0 - 5.0 cm	長径が> 5.0 cm	
掻痒感	—	痒みを感じるが、薬剤治療を要さない。	痒みを感じ、薬剤治療を要する。	
熱感	—	熱を感じるが、薬剤治療を要さない。	熱を感じ、薬剤治療を要する。	

全身性反応のAEの重症度判定基準

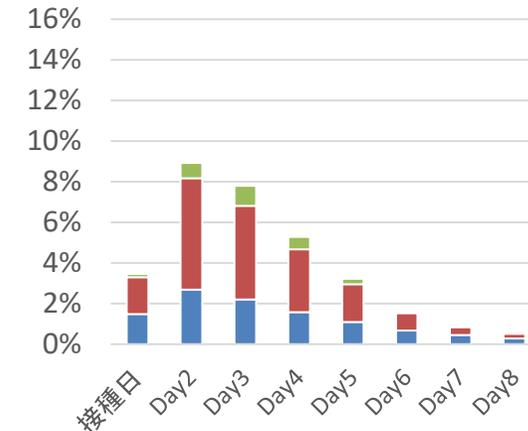
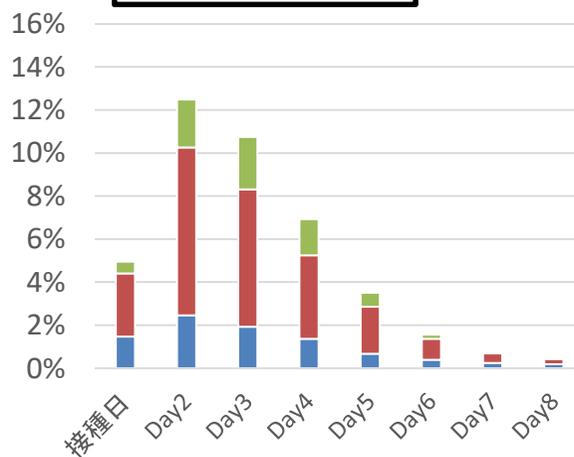
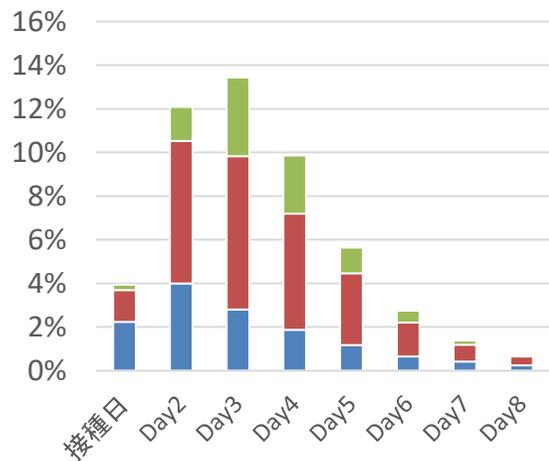
Grade AE名	1（軽度）	2（中等度）	3（高度）	4（重篤、生命の危険がある）
頭痛	日常感じる頭痛より軽度の頭痛の増強 薬剤治療を要さない	中等度の頭痛 薬剤治療を要する又は、日常生活の一部に困難が生じる	高度の頭痛、日常生活に支障あり	活動不能／動作不能
倦怠感	日常感じる疲労より軽度の疲労の増強 薬剤治療を要さない	中等度の疲労 薬剤治療を要する又は、日常生活の一部に困難を生じる	高度の疲労、日常生活に支障あり	活動不能／動作不能
鼻汁	日常より鼻汁はあるが、薬剤治療を要さない	中等度の鼻汁 薬剤治療を要する又は、日常生活の一部に困難が生じる	高度の鼻汁、日常生活に支障あり	—

接種部位反応 ①

1回目接種後 n=19,157(96.7%)



2回目接種後 n=15,985(80.7%)



■ 軽度 ■ 中等度 ■ 高度

■ 軽度 ■ 中等度 ■ 高度

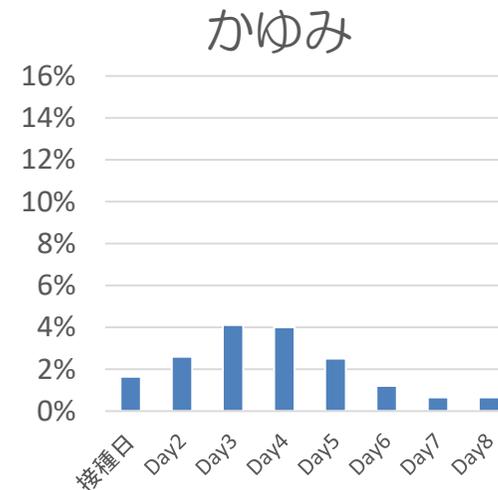
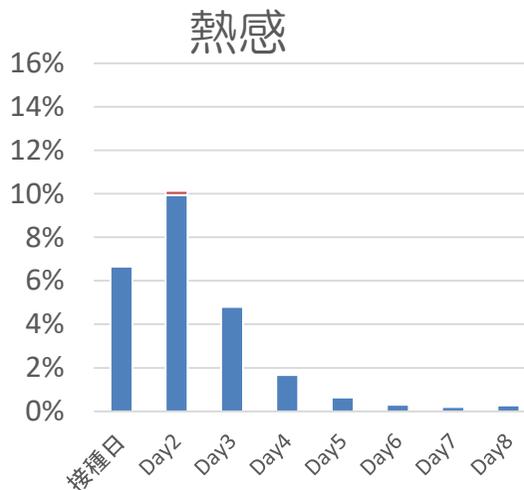
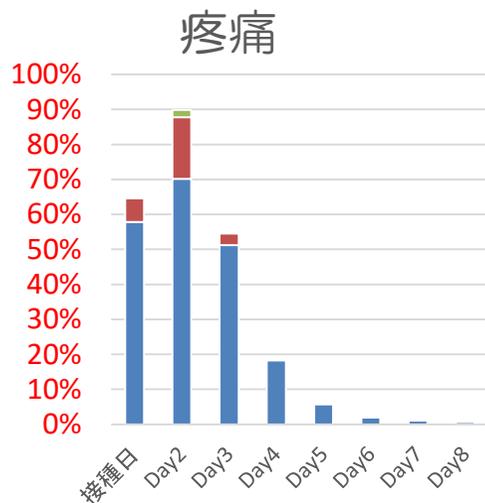
■ 軽度 ■ 中等度 ■ 高度



接種部位反応 ②

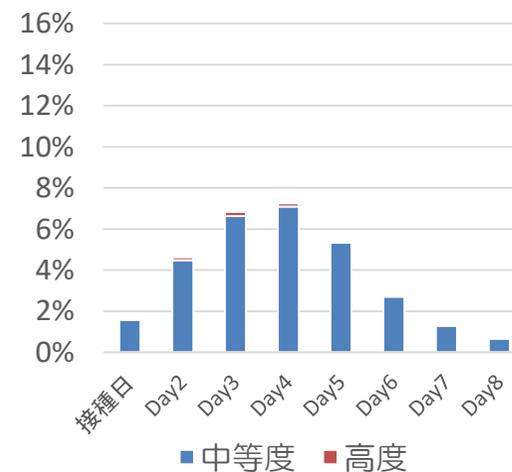
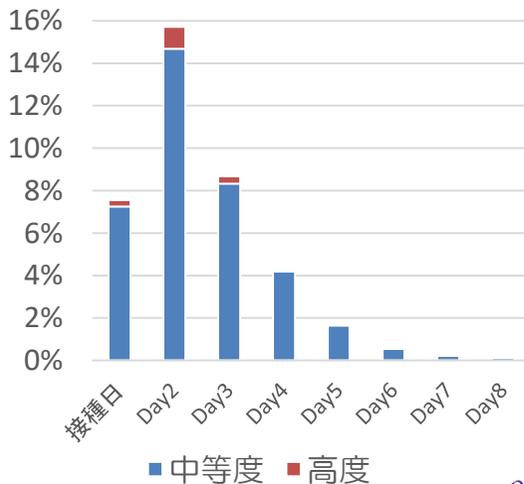
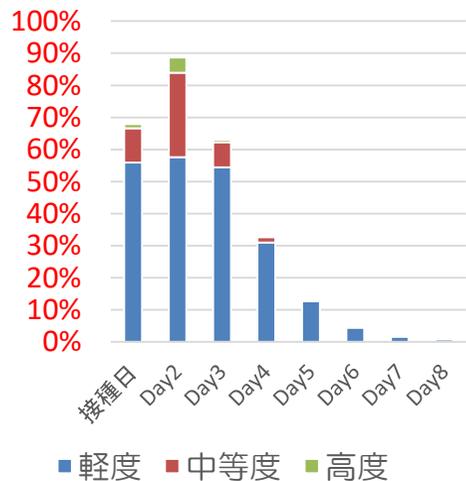
1回目接種後

n=19,157(96.7%)



2回目接種後

n=15,985(80.7%)

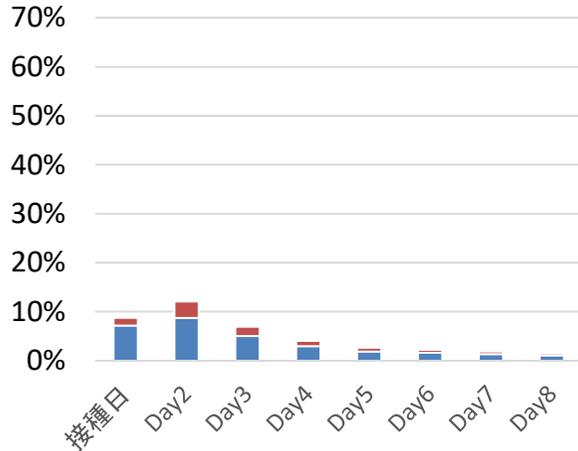


全身反応

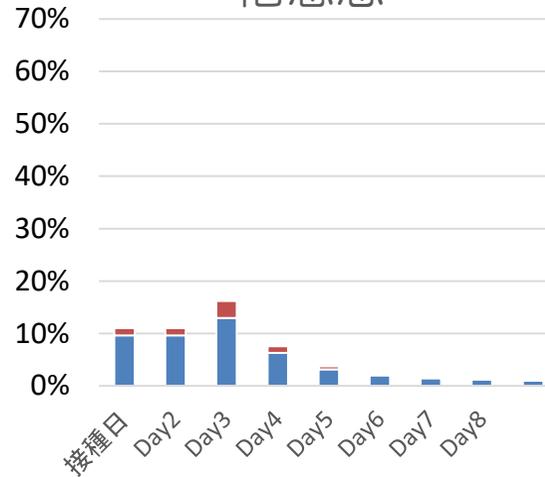
1回目接種後

n=19,157(96.7%)

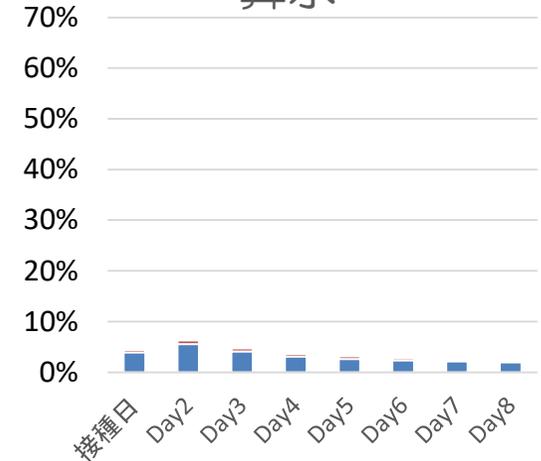
頭痛



倦怠感

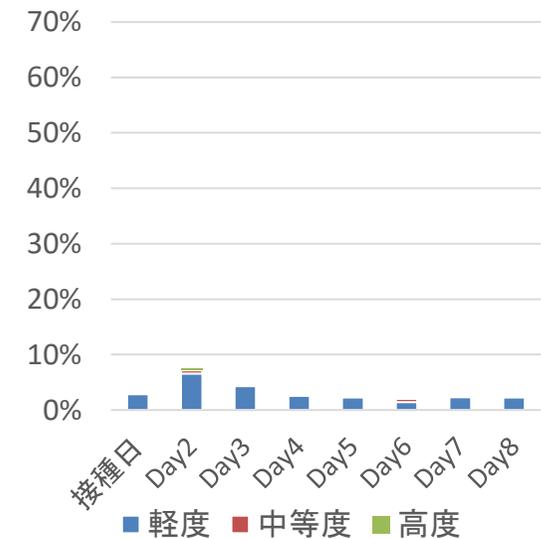
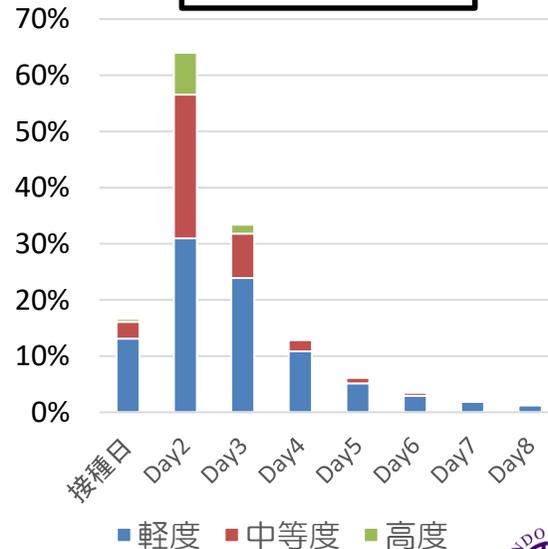
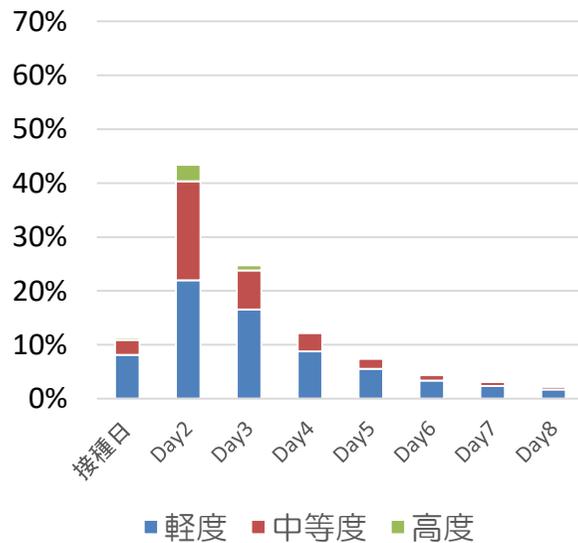


鼻水

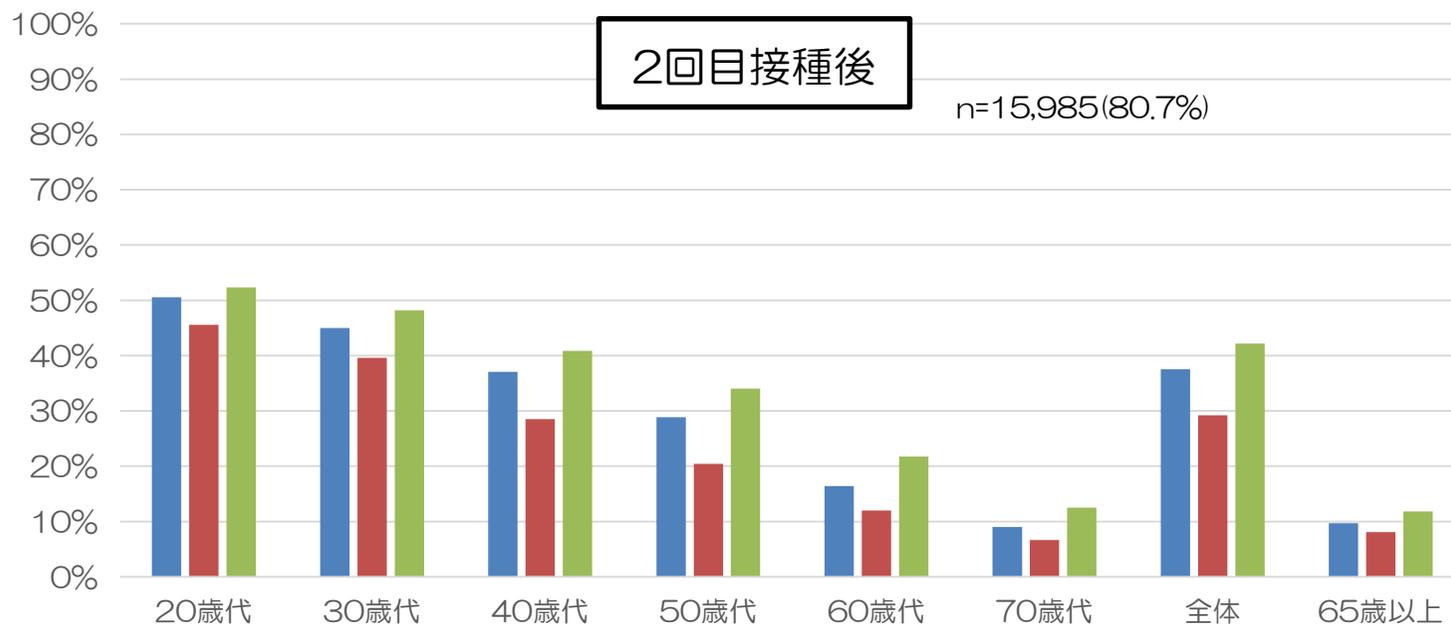
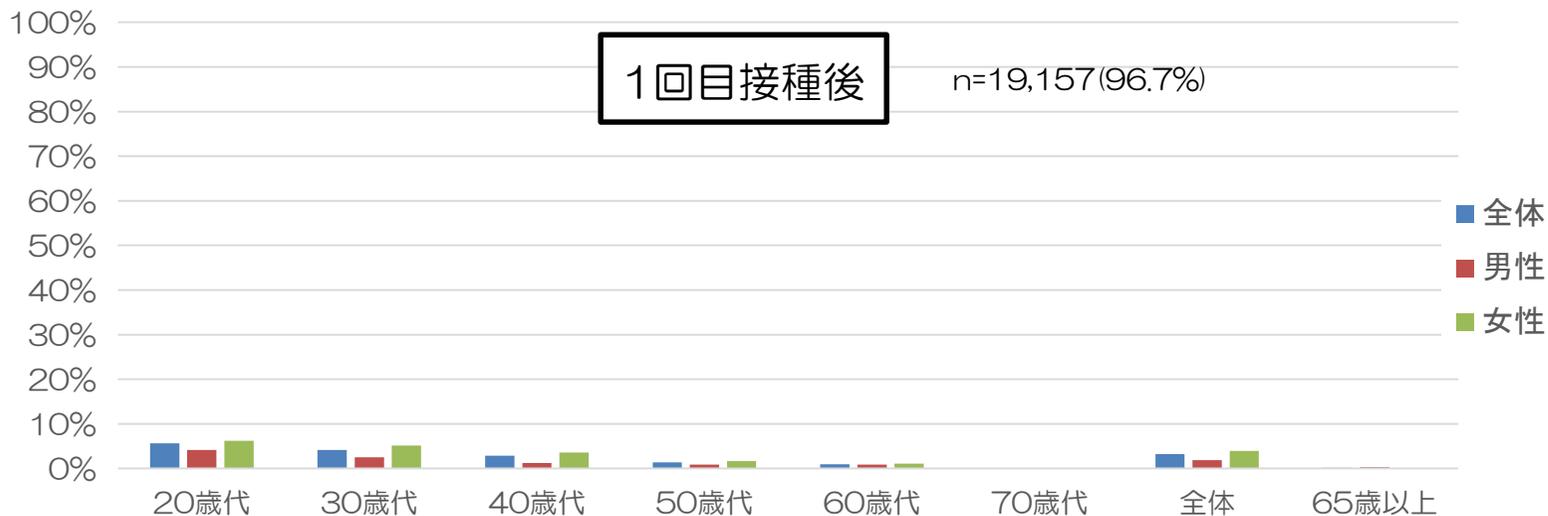


2回目接種後

n=15,985(80.7%)



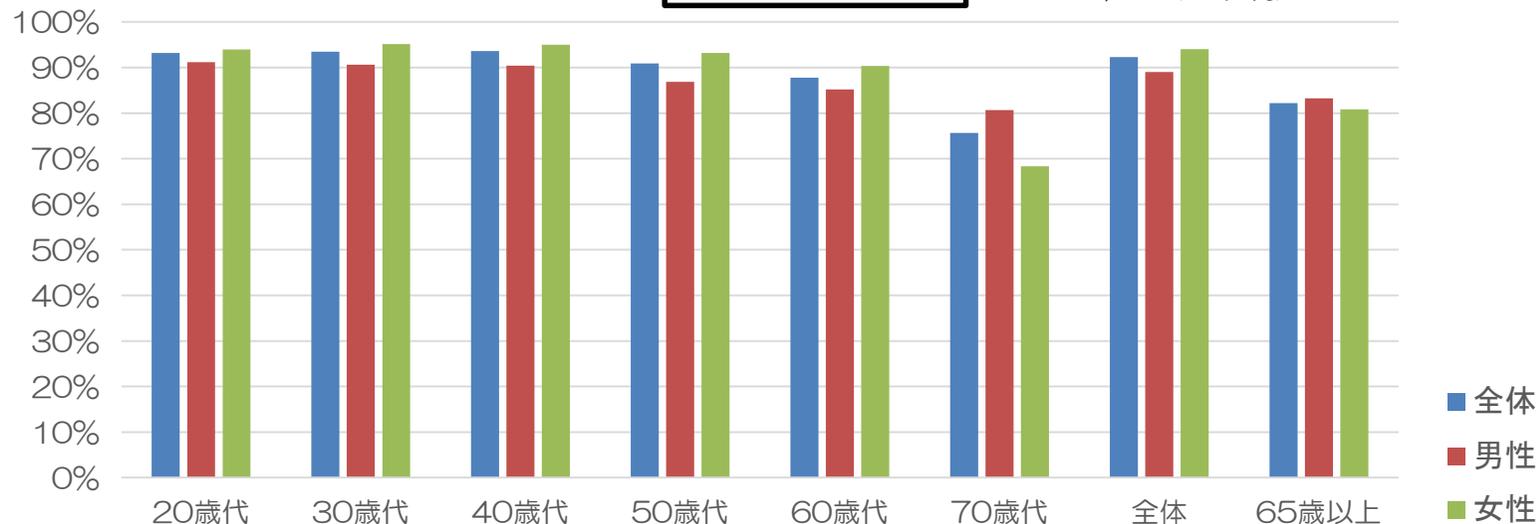
発熱 (37.5°C以上)



接種部位疼痛

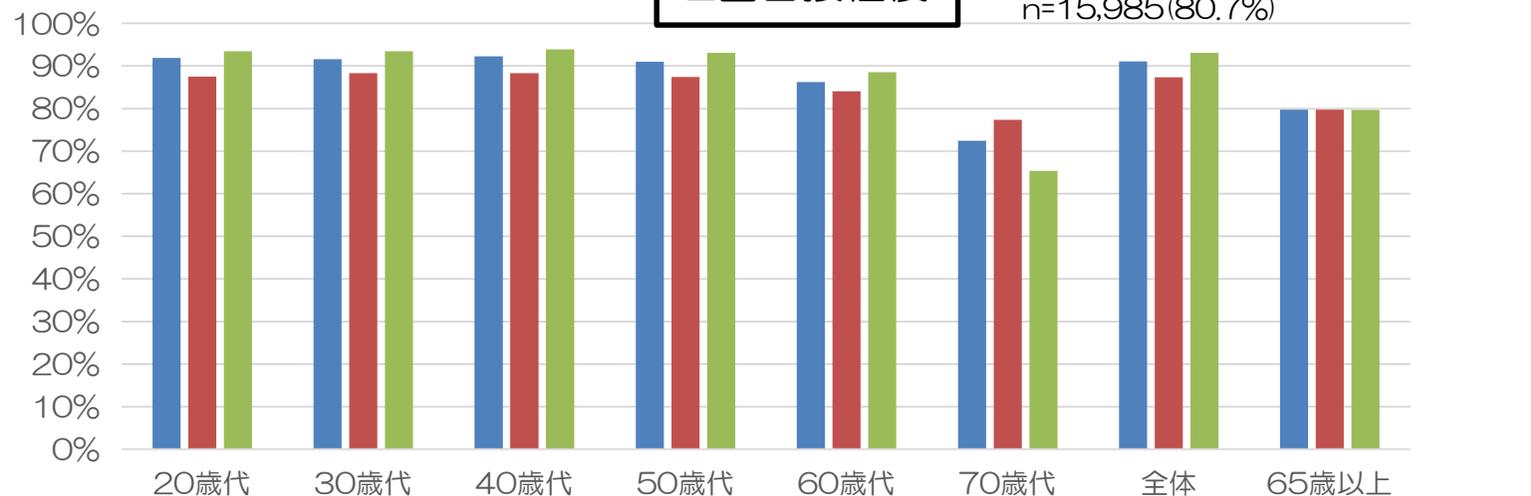
1回目接種後

n=19,157(96.7%)

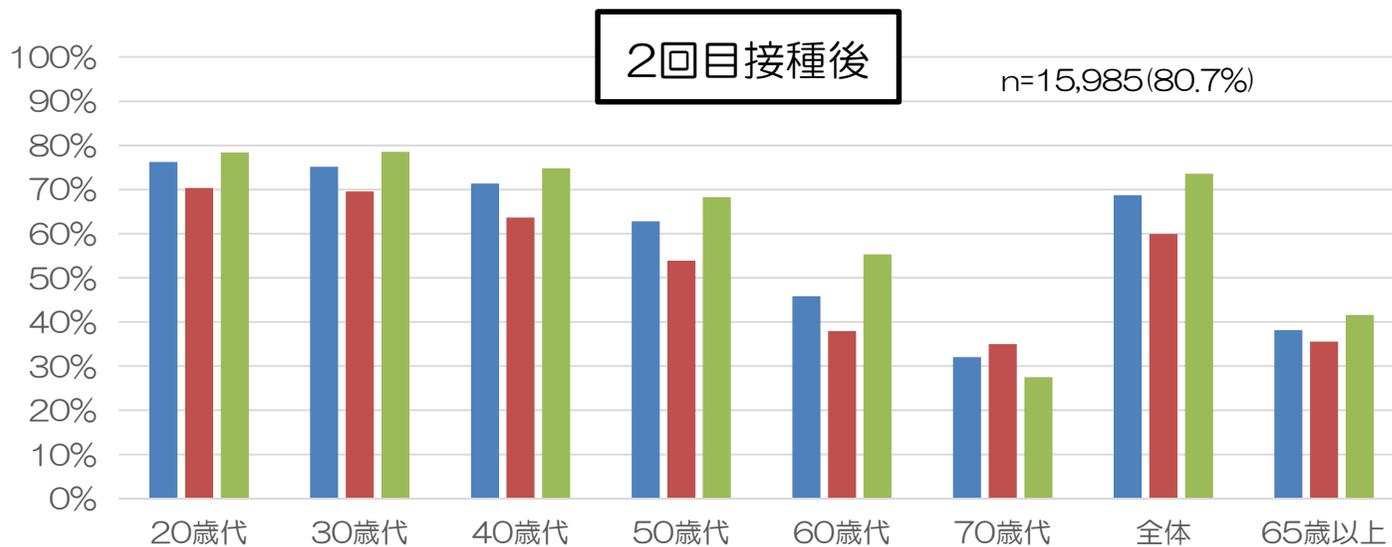
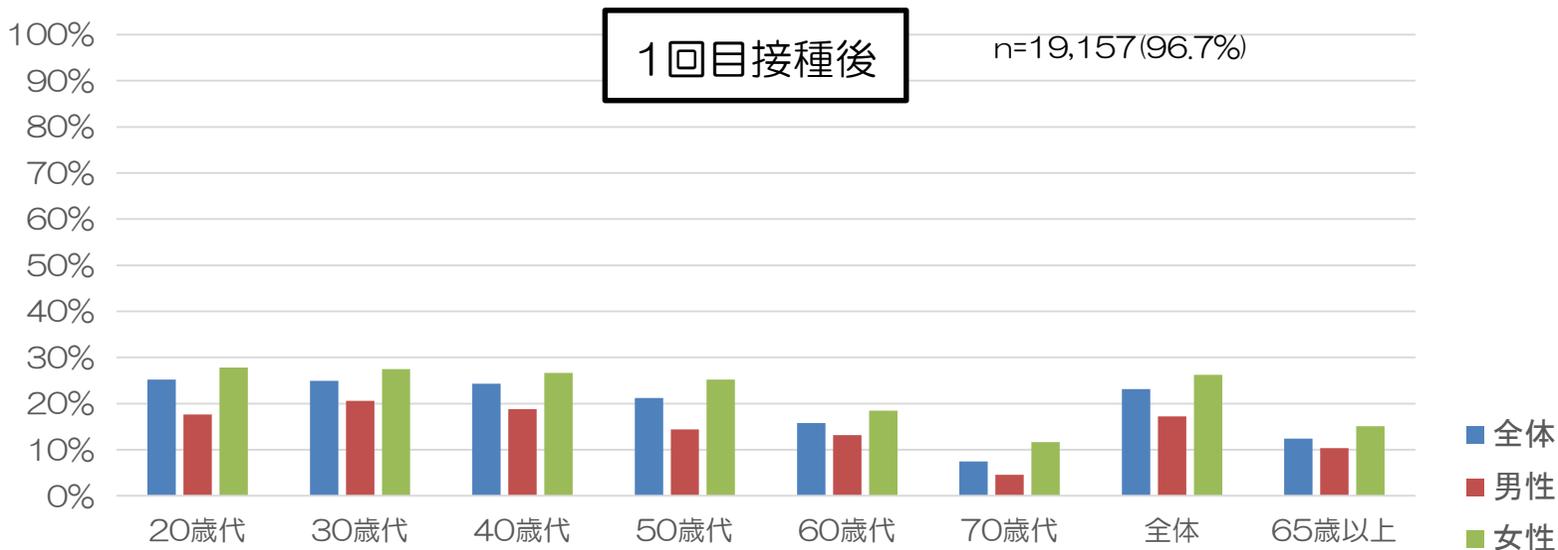


2回目接種後

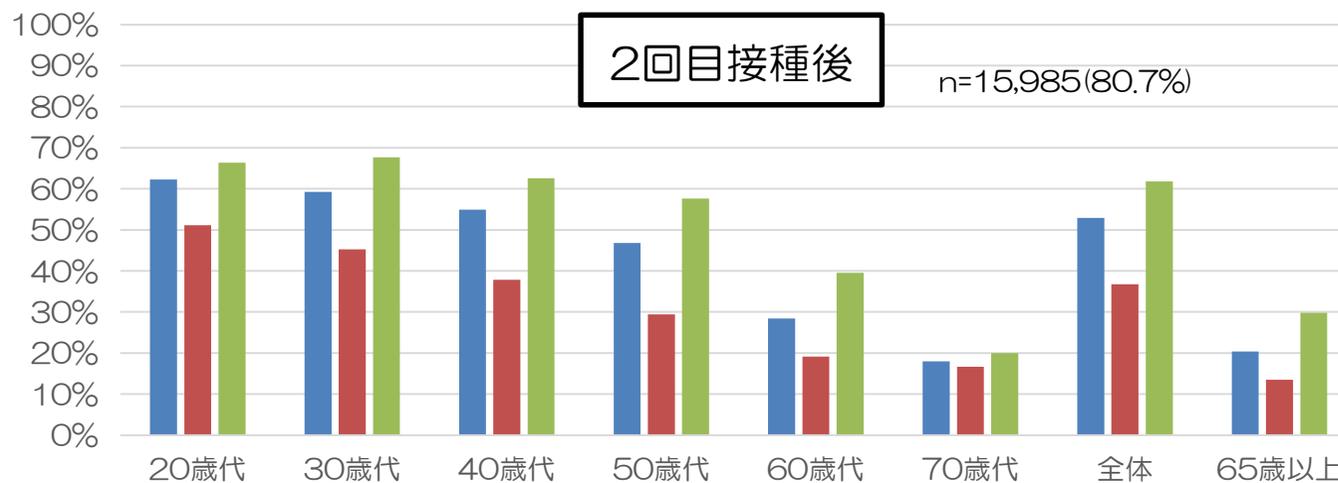
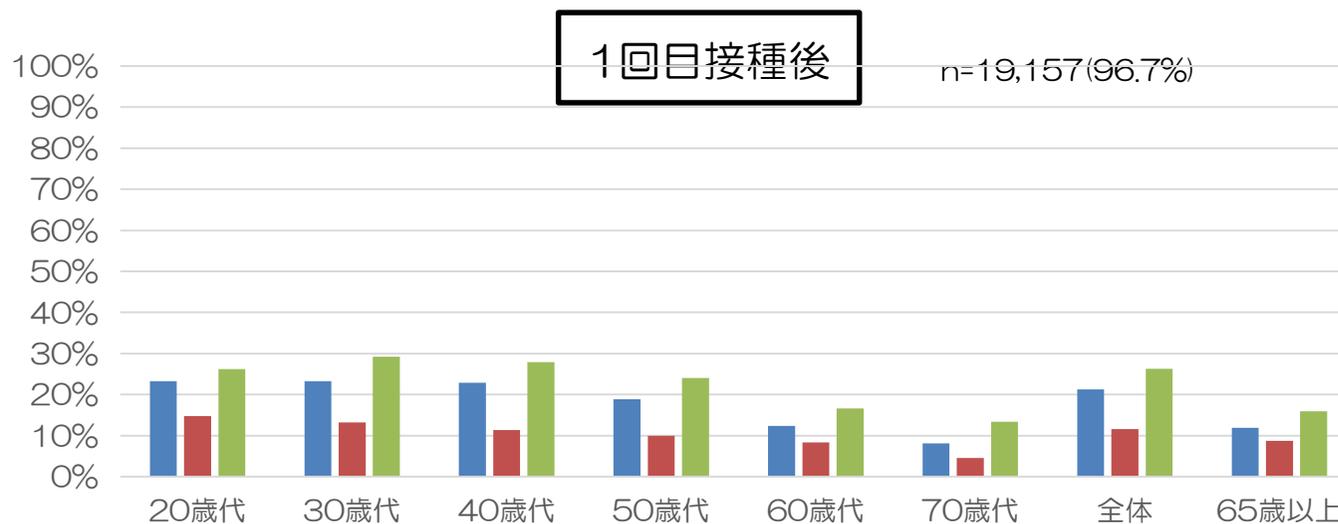
n=15,985(80.7%)



全身倦怠感



頭痛



9日目以降の健康観察日誌記録

1回目接種後

被接種者数 14,333例

局所反応

	Day9	Day10	Day10 以降
発熱	0.14%	0.10%	0.10%
発赤	1.08%	0.99%	0.66%
腫脹	0.54%	0.48%	0.28%
硬結	0.73%	0.62%	0.39%
疼痛	0.49%	0.39%	0.20%
熱感	0.36%	0.31%	0.17%
かゆみ	0.83%	0.67%	0.00%

全身反応

	Day9	Day10	Day10 以降
頭痛	1.23%	0.88%	0.28%
倦怠感	0.89%	0.73%	0.76%
鼻水	1.44%	1.36%	0.76%

海外試験とH1N1インフルエンザワクチンとの比較

		BNT162b2 mRNAワクチン 筋注		BNT162b2第Ⅲ相試験 (NEJM) 2020年 海外 18,860例		H1N1pdm インフルエンザワクチン 不活化ワクチン 皮下注	
コミナティ筋注 先行接種		先行接種				H1N1インフルエンザ	
2021年 (NHO, JCHO, JOHAS) 途中経過		19,157 1回目	15,985 2回目	18,860例 1回目	2回目	2009年 (NHO) 22,112例	
発熱 (37.5℃以上)	3.3%	38.1%				発熱 (37.5℃ 以上)	3.1%
発熱 (38℃以上)	0.9%	21.0%	Fever (38.0℃以上)	4%	16%		
接種部位反応	92.9%	92.4%				接種部位反応	69.9%
発赤	14.0%	16.4%	Redness	5%	6%	発赤	60.1%
疼痛	92.3%	91.1%	Pain at injection site	83%	78%	疼痛	43.8%
腫脹	12.6%	14.2%	Swelling	6%	6%	腫脹	36.0%
硬結	10.7%	10.3%					
熱感	12.9%	18.7%				熱感	28.2%
かゆみ	8.0%	12.1%				かゆみ (中等度以 上)	6.7%
全身症状	35.8%	73.7%				全身症状	26.7%
倦怠感	23.2%	69.3%	Fatigue	47%	59%	倦怠感	19.0%
頭痛	21.2%	53.6%	Headache	42%	52%	頭痛	14.1%
鼻水	10.3%	14.4%				鼻水	10.4%

まとめ

2021/4/7現在

- 2月14日に特例承認となった新型コロナワクチン「コミナティ筋注」を2月17日から先行接種対象者に接種開始した。
- 2月25日に被接種者登録が終了し、19,808例が1回目接種し、コホート調査に登録された。
- 被接種者は20代から50代がそれぞれ21-25%、60歳以上が8.7%、男性33.8%、女性66.2%、医師16.7%、看護師46.6%であった。2回目接種は19,465例が接種した。
- 接種後8日目以降に回収した1回目接種19,157例(全体の96.7%) および2回目接種15,985例(80.7%) の健康観察日誌から、1回目接種後の発熱(37.5℃以上)は3.3%であったが、2回目は38.1%と高率であった。発熱する場合は翌日が多く、接種3日目には解熱した。接種部位の疼痛は90%を超える被接種者が自覚し、接種翌日が最も頻度が高かった。接種3日後には軽快した。1回目に比べ、2回目接種では接種翌日に頭痛(5割)、全身倦怠感(7割)を自覚した。年齢および性別によって、副反応の発現頻度は異なり、若年者・女性が高かった。65歳以上(479例)では発熱9%、全身倦怠感38%、頭痛20%であったが、接種部位疼痛は80%であった。
- 健康観察日誌の自由記載副反応から、腋窩リンパ節腫大を含む反応性リンパ節腫脹が2%にみられた。
- 研究班では2回目接種翌日の勤務は控えるように勧告をしていたが、それでも病休者は6%にみられた。
- 2009年のH1N1pdmインフルエンザワクチンNHO 2万人調査と比較すると、コミナティ筋注は接種部位の疼痛の頻度が明らかに高く、2回目接種後の37.5℃以上の発熱(4割)、頭痛(5割)、全身倦怠感(7割)を認めた。
- 2回目接種後も接種30分以内の副反応疑いを認めた。1回目、2回目接種合わせて、顔面神経麻痺を含む末梢神経障害など22例がPMDAに報告された。

1. スケジュール
2. ワクチン分配
3. 安全なワクチン接種に向けた取組
4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)
5. **国民への情報発信**
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務
7. 令和3年度の交付申請
8. 各自治体の準備状況

- 国民や自治体、医療従事者等へ、厚生労働省ホームページやSNS等を通じて、情報提供を行っている。

厚生労働省ホームページ

○国民への情報提供

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html

- ・接種のお知らせ
- ・有効性と安全性
- ・接種実績
- 等
- <特設サイト>・Q & A
- ・コロナワクチンナビ

○自治体への情報提供

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_notifications.html

- ・自治体向け手引き
- ・自治体向け説明会資料
- ・通知
- ・事務連絡
- 等

○医療機関への情報提供

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_iryoukikanhenou_oshirase.html

- ・接種の準備から実施までの進め方
- ・副反応疑い報告の方法
- ・予診票の確認のポイント
- 等

新型コロナワクチンQ&A

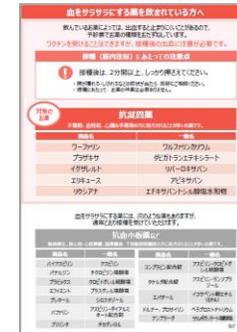


「コロナワクチンナビ」



リーフレット等の広報資材

- ・接種のお知らせ例（多言語対応）
- ・接種後の注意点（ファイザー社のワクチン）
- ・血をサラサラにする薬を飲まれている方へ
- ・新型コロナワクチン接種のお知らせ（高齢者向け）
- ・接種の流れの動画（Q & Aに掲載）
- 等



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_yoshinhyouetc.html

厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター

新型コロナワクチンに関する厚生労働省の電話相談窓口を設置。

（電話番号：0120-761770 受付時間：原則9時～21時（土日・祝日も実施、対応言語により異なる）

（対応言語：日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語・タイ語・ベトナム語）

- 政府広報等において、国民向けに、動画・新聞等を活用した広報を実施中／実施予定。

SNS

- Twitterに河野大臣会見や事務連絡などの最新情報を投稿 https://twitter.com/kantei_vaccine?ref_src=twsrc%5Etfw

動画・テレビCM

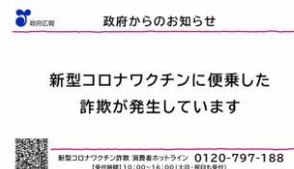
- オンライン動画 https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine_arch.html

- ・教えて忽那先生
- ・河野大臣動画
- ・メッセージャーRNAワクチン解説動画



- テレビCM

- ・ワクチン詐欺注意動画【4月1日～7日】
- ・全世代向け・効果と副反応の説明【4月8日～放送開始】
- ・高齢者向け・接種に関する手続【GW明け】



新聞広告

- ・ワクチンに関する広告【GW明け】

チラシ等広報資料

- ・皆様に知っていただきたいこと（日・英） <https://www.kantei.go.jp/jp/content/210406vaccine.pdf>
- ・自治体広報誌向けチラシ（日・英）【近日中】等 https://www.kantei.go.jp/jp/content/210406vaccine_en.pdf



- 予診票、説明書、接種のお知らせ（例）については、17言語に翻訳したものを公表している。

翻訳言語

○予診票、説明書、接種のお知らせ（例）を以下の言語に翻訳したものを厚生労働省ホームページに掲載している。

- 英語 (English)
- アラビア語 (Arabic)
- 中国語 (簡体字) (Simplified Chinese)
- 中国語 (繁体字) (Traditional Chinese)
- フランス語 (French)
- インドネシア語 (Indonesian)
- クメール語<カンボジア> (Khmer)
- 韓国語 (Korean)
- モンゴル語 (Mongolian)
- ミャンマー語 (Myanmar)
- ネパール語 (Nepali)
- ポルトガル語 (Portuguese)
- ロシア語 (Russian)
- スペイン語 (Spanish)
- タガログ語<フィリピン> (Tagalog)
- タイ語 (Thai)
- ベトナム語 (Vietnamese)

厚生労働省HP
「外国語の新型コロナワクチンの予診票等」



https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_tagengo.html

予診票（翻訳）の使い方

○翻訳された予診票を見ながら日本語の予診票に記入してください。

日本語

翻訳

1. スケジュール
2. ワクチン分配
3. 安全なワクチン接種に向けた取組
4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)
5. 国民への情報発信
6. **住民への接種体制の確保・接種に係る事務**
7. 令和3年度の交付申請
8. 各自治体の準備状況

接種順位の考え方

1 接種順位の基本的考え方と具体的な範囲について

重症化リスクの大きさ等を踏まえ、まずは①医療従事者等への接種、次に②高齢者、その次に③高齢者以外で基礎疾患を有する者、高齢者施設等の従事者への接種をできるようにする。

その後、それ以外の者に対し、ワクチンの供給量や地域の実情等を踏まえ順次接種をできるようにする。

令和3年2月9日 内閣官房、厚生労働省「新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種について」

接種順位の基本的考え方と具体的な範囲について

※ 供給量等を踏まえ、各グループ内でも年齢等により、更に順位が細分化されることがある。

医療従事者等への接種

高齢者へのクーポン配布

高齢者への接種

それ以外の者へのクーポン配布

基礎疾患を有する者
(高齢者以外) への接種

高齢者施設等の従事者への接種

60～64歳の者 (ワクチンの供給量による)

上記以外の者に対し、ワクチンの供給量や地域の実情等を踏まえ順次接種

1. 以下の病気や状態の方で、通院／入院している方

1. 慢性の呼吸器の病気
2. 慢性の心臓病（高血圧を含む。）
3. 慢性の腎臓病
4. 慢性の肝臓病（肝硬変等）
5. インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
6. 血液の病気（ただし、鉄欠乏性貧血を除く。）
7. 免疫の機能が低下する病気（治療中の悪性腫瘍を含む。）
8. ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
9. 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
10. 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態（呼吸障害等）
11. 染色体異常
12. 重症心身障害（重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態）
13. 睡眠時無呼吸症候群
14. **重い精神疾患（精神疾患の治療のため入院している、精神障害者保健福祉手帳を所持している、又は自立支援医療（精神通院医療）で「重度かつ継続」に該当する場合）や知的障害（療育手帳を所持している場合）**

2. 基準(BMI 30以上)を満たす肥満の方

* BMI30の目安: 身長170cmで体重約87kg、身長160cmで体重約77kg。

第44回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会（令和3年3月18日）の審議を踏まえ、追加

(参考)対象者の規模の推計

○ 入院: 数十万人(平成29年患者調査)*、外来: 560万人(令和元年国民生活基礎調査)*

○ 肥満(BMI30以上): 260万人(内閣府)*

○ 重い精神疾患や知的障害: 210万人(新規)

(* 年齢は20-64歳とした。)

⇒ **合計約1030万人(互いに重複がない場合)**

接種順位の上位に位置づける者の接種順位と規模(想定)

★更新★

- これまでの議論を踏まえると、接種順位、対象者の範囲・規模について、現時点では以下のように想定される。

接種順位の上位に位置づける者の規模の推計(万人)

医療従事者等
約470

高齢者
約3600

基礎疾患を有する者
約1030

高齢者施設等の従事者
約200

60~64歳
約750

合計
約6050万人

医療従事者等への接種(※1)

高齢者への
クーポン配布

高齢者への接種(※2)

高齢者以外への
クーポン配布

基礎疾患を有する者
(高齢者以外)への接種(※3)

高齢者施設等の従事者への接種(※4)

60~64歳の者(※5)

上記以外の者に対し、ワクチンの供給量等を踏まえ順次接種

※ 供給量等を踏まえ、各グループ内でも年齢等により、更に順位が細分化されることがある。

※1

- ・ 新型コロナウイルス感染症患者(新型コロナウイルス感染症疑い患者を含む。)に直接医療を提供する施設の医療従事者等(新型コロナウイルス感染症患者の搬送に携わる救急隊員等及び患者と接する業務を行う保健所職員等を含む。)
- ・ 医療従事者については市町村からのクーポン配布によらずに接種できる仕組みを検討中

※4

- ・ 高齢者等が入所・居住する社会福祉施設等(介護保険施設、居住系介護サービス、高齢者が入所・居住する障害者施設・救護施設等)において、利用者に直接接する職員(市町村の判断により、一定の居宅サービス事業所等及び訪問系サービス事業所等の従事者も含まれる。(一定数))

※2

- ・ 令和3年度中に65歳以上に達する人
- ・ ワクチンの供給量・時期等によっては、細分化が必要な場合がある

※5

- ・ ワクチンの供給量による

※3

1. 以下の病気や状態の方で、通院/入院している方

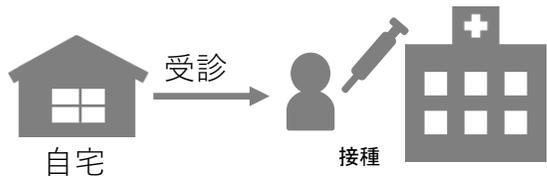
1. 慢性の呼吸器の病気
 2. 慢性の心臓病(高血圧を含む。)
 3. 慢性の腎臓病
 4. 慢性の肝臓病(肝硬変等)
 5. インスリンや飲み薬で治療中の糖尿病又は他の病気を併発している糖尿病
 6. 血液の病気(ただし、鉄欠乏性貧血を除く。)
 7. 免疫の機能が低下する病気(治療中の悪性腫瘍を含む。)
 8. ステロイドなど、免疫の機能を低下させる治療を受けている
 9. 免疫の異常に伴う神経疾患や神経筋疾患
 10. 神経疾患や神経筋疾患が原因で身体の機能が衰えた状態(呼吸障害等)
 11. 染色体異常
 12. 重症心身障害(重度の肢体不自由と重度の知的障害とが重複した状態)
 13. 睡眠時無呼吸症候群
 14. 重い精神疾患(精神疾患の治療のため入院している、精神障害者保健福祉手帳を所持している、又は自立支援医療(精神通院医療)で「重度かつ継続」に該当する場合)や知的障害(療育手帳を所持している場合)
2. 基準(BMI 30以上)を満たす肥満の方

- 新型コロナウイルスワクチンの接種は、平時の定期接種と同様に、各地域で住民向けの接種体制を構築することから、住民票所在地の市町村で接種を受けることを原則とする。
- ただし、長期入院、長期入所している等のやむを得ない事情による場合には、住民票所在地以外でワクチン接種を受けることができることとする。

原則（住所地内で接種）

- ・ 住民票所在地の市町村に所在する医療機関等で接種を受けることが原則とする。
- ・ 市町村は住民向けの接種体制を構築する。

住民票所在地の市町村



平時の定期接種と同様

例外（住所地外で接種）

- ・ 長期入院、長期入所している方等のやむを得ない事情による場合には、例外的に住民票所在地以外でワクチン接種を受けることができる。

やむをえない事情で住民票所在地以外に長期間滞在している者の例

市町村への申請が必要な方

- ・ 出産のために里帰りしている妊産婦
- ・ 遠隔地へ下宿している学生
- ・ 単身赴任者 等

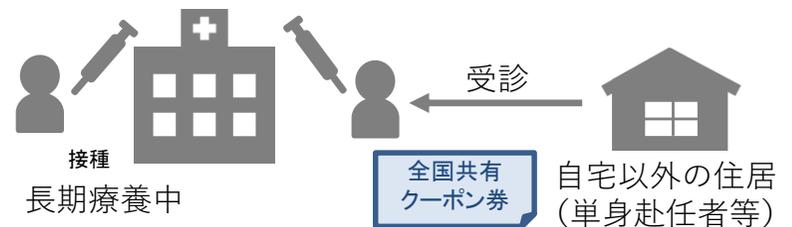
市町村への申請が不要な方

- ・ 入院・入所者
- ・ 基礎疾患を持つ者が主治医の下で接種する場合
- ・ **副反応のリスクが高い等のため、体制の整った医療機関での接種を要する場合**
- ・ **市町村外の医療機関からの往診により在宅で接種を受ける場合**
- ・ 災害による被害にあった者
- ・ 拘留又は留置されている者、受刑者 等

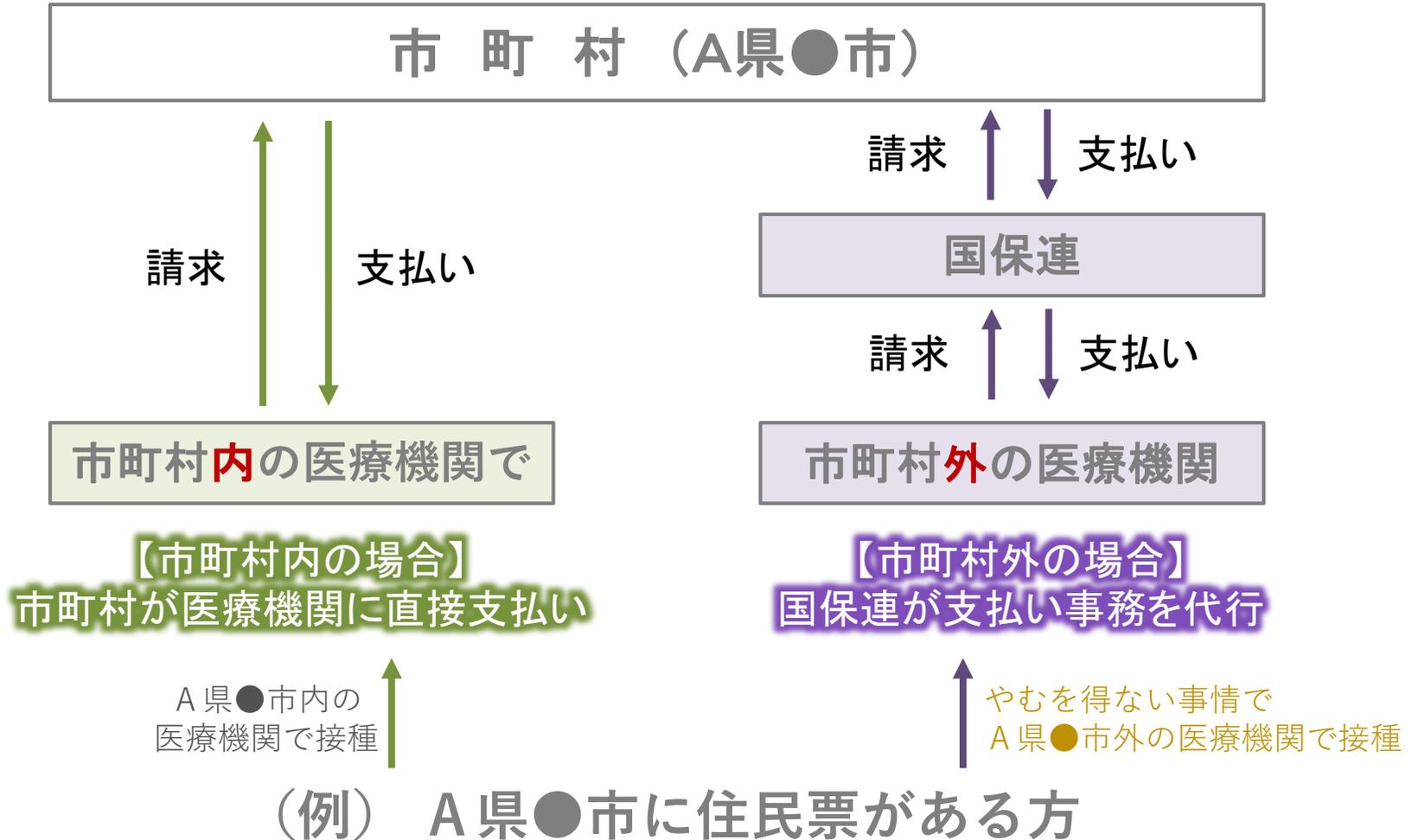
住民票所在地の市町村



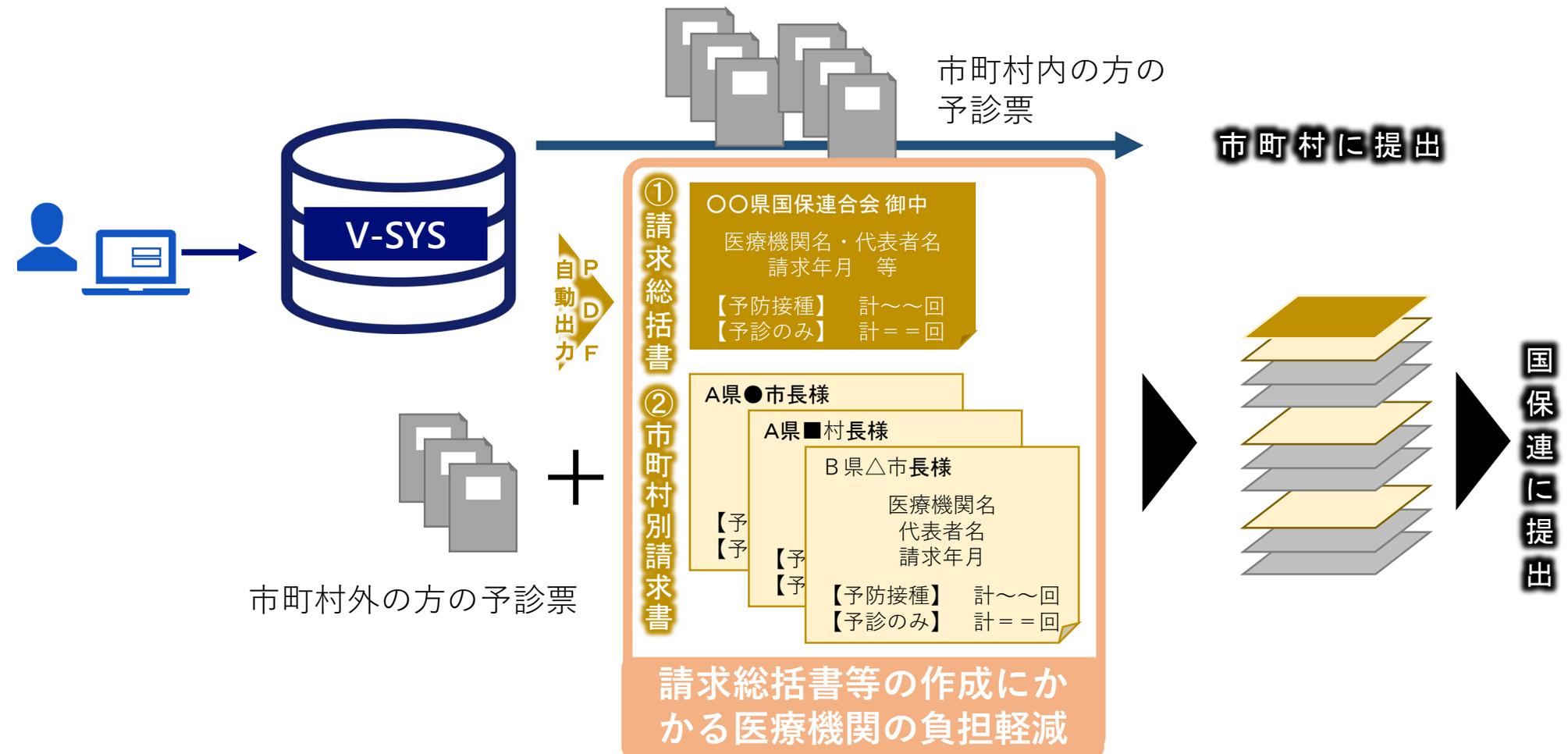
住民票所在地以外の市町村



- 住民が住所地内の医療機関で接種を受けた場合、医療機関は市町村に直接費用を請求・支払いする。
- 住民が住所地外の医療機関で接種を受けた場合、市町村の支払い事務を国保連が代行する。
- 市町村外の医療機関に対する支払いがなくなり、事務負担の軽減につながる。



- V-SYSに必要な情報を登録することで、国保連に費用請求を行う際に必要となる請求総括書等の出力が可能。
- これにより、請求総括書等の作成にかかる医療機関の負担軽減を図る。



実績入力

請求書（PDF）の出力

請求書の提出

< 予診票の分別 >

- Step 1 接種券貼付or印字済で分別
- Step 2 同一市内or市外で分別
更に、市外を市区町村で分別
- Step 3 予診のみor接種で区別
- Step 4 6歳以上or未満で区別

< V-SYSへの入力 >

- Step 1 V-SYSにログイン
- Step 2 請求総括書の作成をクリック
- Step 3 請求件数を入力⇒保存

- ・請求件数は月末までの実績を入力し、翌月1日～10日までに国保連or市町村に請求ください。
- ・いわゆる月遅れ請求の場合は請求件数に含めて入力ください。
- ・接種実績の報告件数以上、費用請求の件数は入力できません。接種実績の更新をお忘れなくお願いします。

< 事前確認 > **重要!!**

医療機関所在地と同一市町村内の予診票の取扱いを確認。

- ①通常地域：国保連には市外の方の予診票のみ送付
(同一市町村分は、直接市町村に送る)
- ②同一市町村内の請求も国保連で受け付ける地域：国保連に送る
(市町村からその旨の案内があった場合、国保連に市外の方と市内の方の予診票を送付)

< 請求総括書の出力 >

- ①の場合は、請求総括書出力（同一市内にお住まいの方分を含まない）をクリック⇒印刷
- ②の場合は、請求総括書出力（同一市内にお住まいの方を含む）をクリック⇒印刷

< 市区町村別請求書の出力 >

- Step 1 市区町村別請求書出力
(クーポンあり分※1) をクリック⇒印刷 ※1 接種券貼付：住民用、詳細は後述
- Step 2 市区町村別請求書出力
(クーポンなし分※2) をクリック⇒印刷 ※2 接種券印字済み：医療従事者等用、定義は後述

< 提出資料のセット >

詳細は「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する医療機関向け手引き」第5章請求事務をご確認ください。

①の場合

Step 1

市区町村別請求書と当該市町村の方の予診票をセット
(同一市町村内の方の請求書はセットしない)

Step 2

一番上に請求総括書をセット

②の場合

Step 1

市区町村別請求書と当該市町村の方の予診票をセット
(同一市町村内の方の請求書もセットする)

Step 2

一番上に請求総括書をセット

< 請求書の提出 >

毎月10日までに国保連に提出₅₁

新型コロナワクチン接種後の健康被害救済について

- 新型コロナウイルスワクチン予防接種健康被害給付費負担金については、今後必要額の調査を行う予定。
- アナフィラキシー等の即時型アレルギー反応に係る医療費・医療手当の請求については、専用の様式を導入し、診療録等に代えることができる。
- 対象疾病について専用の様式を用いた場合、予防接種健康被害調査委員会を省略することができる。

新型コロナワクチンの予防接種健康被害救済請求事務の変更について

- 新型コロナワクチン接種後の健康被害救済に関しては、予防接種法による救済が行われることから、定期接種と同様の資料を請求の際に提出する必要がある。また、市町村長が設置することになっている予防接種健康被害調査委員会による資料等に関する助言等が必要となっている。
- 一方、新型コロナワクチンの接種は、平時に比べ大規模に実施されることから、その健康被害救済についても多数の請求が予想される。
- また、医療従事者への接種に係る副反応疑い報告では、アナフィラキシー等の即時型アレルギー反応の報告が多くみられており、これらに関する請求も増加することが見込まれる。

対象疾病

予防接種との因果関係が比較的明らかなアナフィラキシーや蕁麻疹等の即時型アレルギー反応（うち、接種後4時間以内に発症し、接種日を含め7日以内に治癒・終診したものに限る。また、症状が接種前から継続している場合や、ワクチン接種以外の原因によると記載医が判断した場合は含めない。）

- 医療費・医療手当の請求については、専用の様式を医師が記載することで、診療録に代えることとし、診療録の提出を求めない。
 - 対象疾病について請求を行う場合は、予防接種健康被害調査委員会による助言等を経ることなく、厚生労働省に進達可能とする。
- これらの対応については、「新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引き」の改正により対応し、新型コロナワクチン接種後の健康被害救済に限ることとする。

(参考) 即時型アレルギー反応に係る医療費・医療手当の請求に係る専用様式のイメージ

別紙1 (医師記載可:医療機関ごとに作成)

予防接種健康被害救済制度 医療費・医療手当申請用

新型コロナウイルスワクチン接種後のアナフィラキシー等の即時型アレルギー反応 症例概要

以下の条件を満たす症例のみ、この様式に記載ください。

- 新型コロナウイルスワクチン接種後4時間以内に発症したアナフィラキシー等の即時型アレルギー反応
- 接種日を含め7日以内に治癒・軽症(例:4/1接種~4/7までに治癒)
- 症状が接種前から継続している場合や、ワクチン接種以外の原因によると記載医が判断した場合は含みません。

※この様式で提出いただく場合は、診療録の提出は不要です。
ただし、詳細確認のため、追加で依頼をさせていただく場合があります。

患者氏名			<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
生年月日	年	月	日生
ワクチン名 (メーカー名)			
今回の症状を認め た接種回	<input type="checkbox"/> 1回目接種	<input type="checkbox"/> 2回目接種	(症状を認めた 接種回に記)
Lot			
接種日時	年 月 日 時 分	年 月 日 時 分	
接種時年齢	歳 か月	歳 か月	
初診日~最終日	年 月 日	~	年 月 日
入院期間	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有(年 月 日 ~ 年 月 日)		
既往歴			
アレルギー歴	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
接種時に罹患/治 療中であった疾患	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
接種前の症状	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		

(症状、経過は裏面に記載)

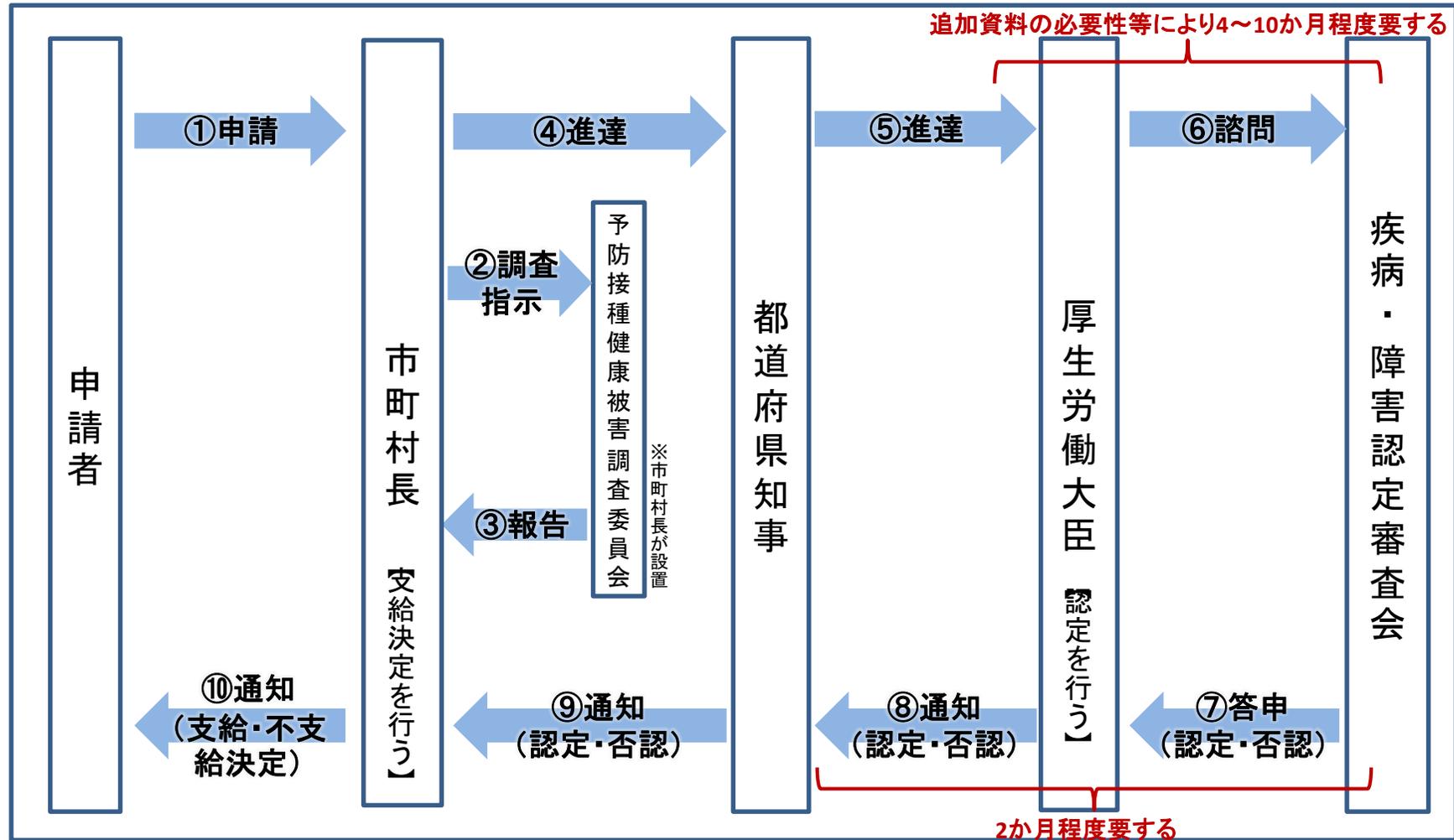
記入日 年 月 日

医療機関名
医師氏名

診断名	(標準記入欄)		
	プライントラ grade		
症状 (複数選択可)	皮膚症状/粘膜症状 <input type="checkbox"/> 全身蕁麻疹もしくは全身性紅斑 <input type="checkbox"/> 血管浮腫(遺伝性のものを除く)、 発熱もしくは全身性 <input type="checkbox"/> 発疹を伴う全身性痒感	循環器系症状 <input type="checkbox"/> 測定された血圧低下 (/ mmHg) <input type="checkbox"/> 非代償性ショックの臨床的診断 (少なくとも以下の3つの組み合わせにより示される) <input type="checkbox"/> 頻脈 (回/分) <input type="checkbox"/> CRT>3秒 <input type="checkbox"/> 中枢性脳拍動弱 <input type="checkbox"/> 乳酸レベル低下/消失	呼吸器系症状 <input type="checkbox"/> 両側性の喘鳴(気管支けいれん) <input type="checkbox"/> 上気道性喘鳴 <input type="checkbox"/> 上気道腫脹 (舌、舌、喉、口蓋後、喉頭) <input type="checkbox"/> 呼吸窮迫(以下の2つ以上) <input type="checkbox"/> 補助的な呼吸筋の使用増加 (胸鎖乳突筋、肋間筋等) <input type="checkbox"/> 顔面呼吸 <input type="checkbox"/> チアノーゼ <input type="checkbox"/> 喉音発生
	<input type="checkbox"/> 発疹を伴わない全身性痒感 <input type="checkbox"/> 全身がもくもく痛む感覚 <input type="checkbox"/> 接種場所の蕁麻疹 <input type="checkbox"/> 有痛性眼充血	<input type="checkbox"/> 末梢性循環の減少 (少なくとも以下の2つの組み合わせにより示される) <input type="checkbox"/> 頻脈 (回/分) <input type="checkbox"/> 血圧低下を伴わないCRT>3秒 <input type="checkbox"/> 乳酸レベルの低下	<input type="checkbox"/> 持続性乾性咳嗽 <input type="checkbox"/> 嘔声 <input type="checkbox"/> 咽喉部閉塞感 <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水 <input type="checkbox"/> 喘鳴もしくは上気道性喘鳴を伴わない呼吸困難
接種から発現までの時間	時間 分	時間 分	時間 分
症状 (複数選択可)	消化器系症状 <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 悪心 <input type="checkbox"/> 嘔吐	臨床検査値 <input type="checkbox"/> 通常の上限以上の肥満細胞トリプ ターゼ上昇	その他 <input type="checkbox"/> 患所(接種部位以外)の蕁麻疹 <input type="checkbox"/> 咽喉頭・口腔内の違和感・痒痛感 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()
	接種から発現までの時間	時間 分	時間 分
治療内容	<input type="checkbox"/> アドレナリン製剤 <input type="checkbox"/> 酸素投与 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 抗ヒスタミン薬 <input type="checkbox"/> 吸入()	<input type="checkbox"/> ステロイド <input type="checkbox"/> 無治療
ワクチン接種との 因果関係についての 意見	<input type="checkbox"/> 無(他の原因: <input type="checkbox"/> 有)		
自由記載欄 (経過の付記等)			

(参考) 健康被害救済に係る手続きについて

- 健康被害救済の申請が行われた場合、以下のような手続きで審査・通知等が行われる。
- 申請書類の確認や追加資料の提出等が必要なため、通常、国が申請を受理してから、疾病・障害認定審査会における審議結果を都道府県知事に通知するまで4～12か月程度の期間を要する。



接種施設がワクチン入手するための方法について

- 医療機関等の接種施設がワクチン入手するには、①基本型接種施設としてファイザー社から直送を受ける方法と、②携帯型・サテライト型接種施設として基本型接種施設から小分けを受ける方法がある。
- 高齢者向け優先接種が本格化する4月26日週以降の納品分から、V-SYSを用いて基本型接種施設へのワクチンの分配先の決定作業が本格化するため、以下の方法等に十分ご留意いただきたい。

ファイザー社からの直送

Step 1 事前準備

- (1) V-SYSにログイン
- (2) 接種医師の情報、ディープフリーザーの台数等の基本情報を入力。
＜注意1＞これらの情報が未入力の場合、ワクチンを希望しても割り当てられない可能性があります。
また、入力された情報（氏名、メールアドレス等）はファイザー社等によるワクチンの最新情報の提供や安全対策に用いられるため、正確な記載をお願いします。
- (3) ファイザー社ワクチンの基本型接種施設にチェック

Step 2 希望量を登録 第1クールの募集期間 4/5(月)～4/9(金)

- (1) V-SYSにログイン
- (2) ワクチンの希望量等を入力。併せて、接種実績も入力。
＜注意2＞接種実績が未入力の場合、ワクチンを希望しても割り当てられない可能性があります。（実績0と入力することも可能です。）
携帯型やサテライト型へ小分けしたワクチンの実績は小分け先で入力することとなるので、自施設内での実績を入力ください。

Step 3 納入量・納入時期等の確認

- (1) V-SYSにログイン
- (2) 納入量・納入時期等を確認。
＜注意3＞全国の供給量が希望量より少なかった場合は、一部のご希望に沿えない場合がありますので、予め、御了承ください。

基本型から小分け

Step 1 書面での記録

- (1) 基本型接種施設から提供される情報提供シート（医療機関向け手引き 様式7-1）を入手
- (2) 保管期限を記載の上、保管。

Step 2 V-SYS上で記録

- (1) V-SYSにログイン
- (2) 情報提供シートを参照し、基本型接種施設名、ロット番号、バイアル本数を入力。

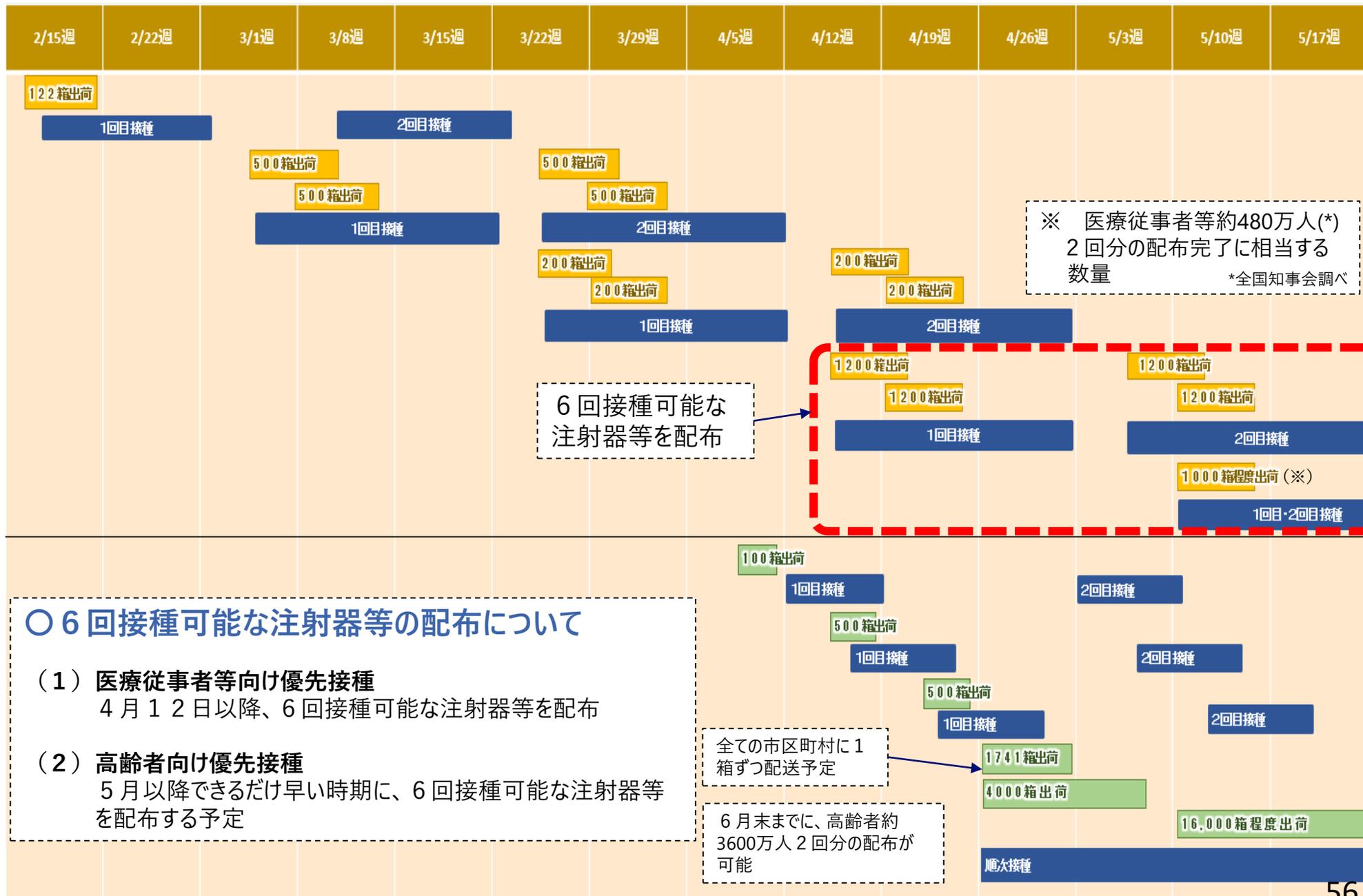
Step 3 接種後の対応

- (1) V-SYSにログインし、接種実績を入力。
- (2) 情報提供シートに使用日、使用本数、残りの本数を記載。
- (3) 情報提供シートで「残りの本数」が0になったことをもって、在庫なしの状態となる。

6回接種可能な注射器等の配布について

医療従事者等向け優先接種

高齢者向け優先接種



非常時におけるファイザーのワクチンの管理について

ファイザー社のワクチンに対する-20℃用ディープフリーザーの活用

-20℃用ディープフリーザーは、モデルナ社のワクチンの管理用を想定しているが、ファイザー社のワクチンについても非常時などで-75℃用ディープフリーザーが使用不可の状況において、ワクチンの廃棄を防止するために活用可能。

⇒ -20℃用ディープフリーザーを、-75℃ディープフリーザーが設置されている基本型接種施設に設置する。

⇒ **令和3年3月15日付け事務連絡『非常時における-20℃冷凍庫の活用に関する調査』を実施。**

想定される非常時のワクチン管理(イメージ)

いずれの場合も、**あらかじめ庫内に設置した超低温対応蓄冷材で保冷** (電源停止後-60℃まで約1.5時間前後、-20℃まで約30時間前後) ※1

回答数：3,044機関/3,222機関 (4月5日時点)

非常用電源

あり
2,495機関/3,044機関

(-20℃冷凍庫なし：1,580機関/2,495機関)

なし：可搬型DFを優先的に配付

549機関/3,044機関

(-20℃可搬型冷凍庫なし：537機関/549機関)

故障・破損等

- ・ DF(-20℃)に給電開始 (給電開始後-20℃まで1～3時間※2)
- ・ 冷却完了後、DF (-20℃) にワクチンを移し替え (DFに入りきらないワクチンは別の機関の可搬式DFにより移し替え)

電力喪失

- ・ DF(-75℃)に非常用電源より給電
〔必要が生じれば、右の可搬式DFがないときと同様の対応〕
- ・ 停電後、配付した可搬式DF(-20℃)を自動車のシガーソケットから給電し、冷却開始 (給電後-20℃まで2時間)。
- ・ 冷却完了後、可搬式DFにワクチンを移し替え。
(※DFに入りきらないワクチンは、別の機関の可搬式DFにより移し替え)

※1 機種や外気温により異なる。

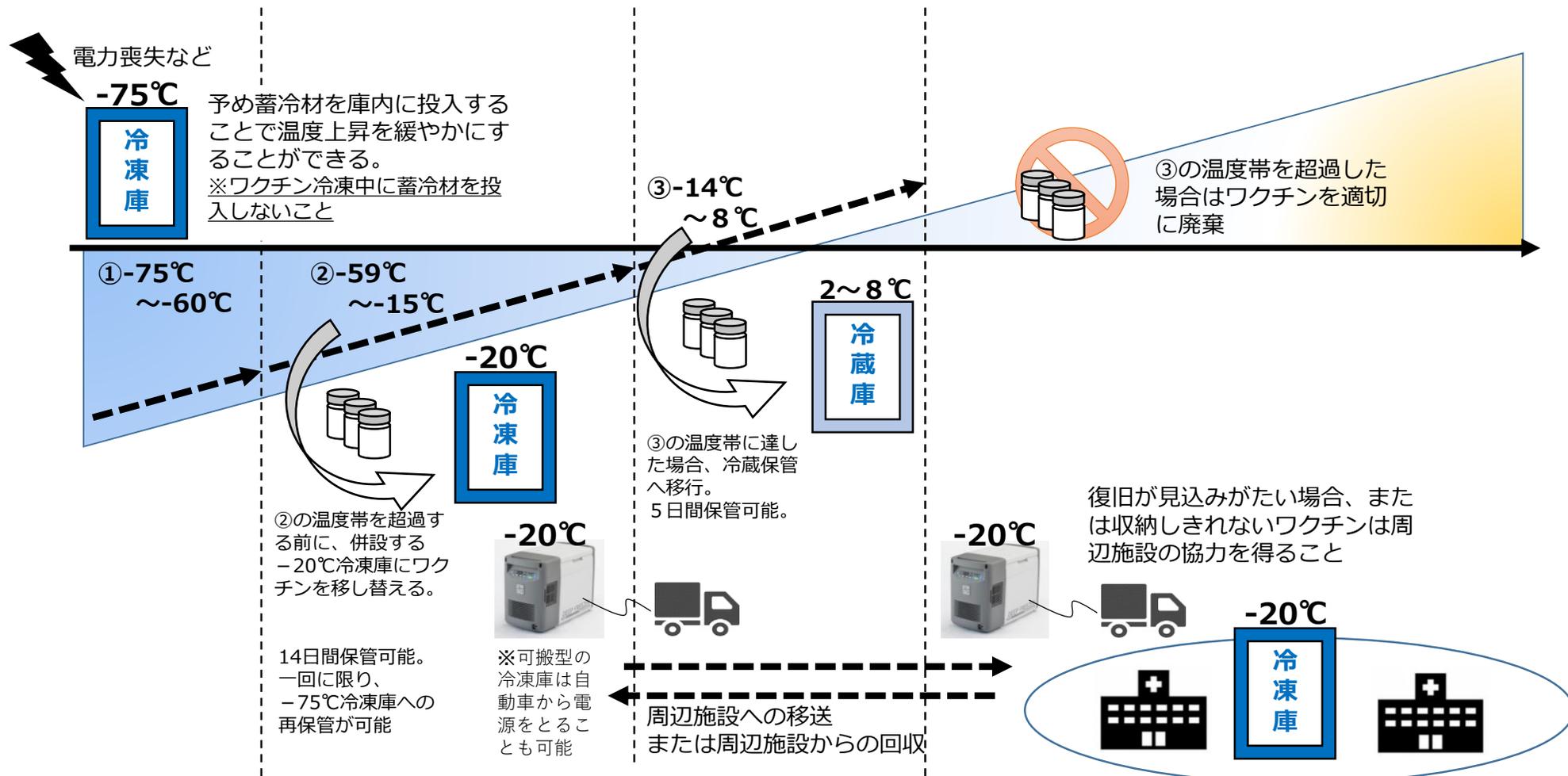
※2 機種により異なる。

今後の対応

- 上記調査を踏まえ、「非常用電源なし」かつ「可搬型冷凍庫保有なし」の機関 (=最も非常時の対応が必要な機関) に対し、-20℃冷凍庫 (可搬式) 配付を検討。

超低温冷凍庫の稼働停止が確認された場合、庫内温度を温度ロガー等により速やかに確認し、温度帯に応じた適切な保管に移行し、ワクチンの損失を防ぐこと。

活用イメージ



各ワクチンの比較

※アストラゼネカ社、武田/モデルナ社については、薬事承認前であり、全て予定の情報です。

- アストラゼネカ社ワクチンと武田/モデルナ社ワクチンはファイザー社ワクチンと比較して、以下のような流通上の特徴がある。

- ・ 最小流通単位が小さい

アストラゼネカ：2バイアル（20回分）

武田/モデルナ：10バイアル（100回分）

- ・ 超低温ディープフリーザーでの保管は不要。

アストラゼネカ：2℃～8℃の冷蔵で6ヶ月保管可能。

武田/モデルナ：-25℃～-15℃の冷凍で6ヶ月保管可能。

2℃～8℃の冷蔵で解凍後最長30日保管可能。

	ファイザー社	アストラゼネカ社	武田/モデルナ社
接種回数	2回(21日間隔)	2回(28日間隔)	2回(28日間隔)
保管温度	-75℃±15℃:6ヶ月 -20℃±5℃:14日 ※ なお、1回に限り、再度-90～-60℃に戻し保存することができる。 2～8℃:5日	2～8℃:6ヶ月	-20℃±5℃:6ヶ月 2～8℃:30日 ※6ヶ月の有効期間中に限る
1バイアルの単位	5回分/バイアル(一般的な針・シリンジ) 6回分/バイアル(特殊な針・シリンジ)	10回分/バイアル	10回分/バイアル
最小流通単位 (一度に接種会場に配送される最小の数量)	195バイアル (一般的な針・シリンジを用いる場合は975回接種分、特殊な針・シリンジを用いる場合は1,170回接種分)	2バイアル (20回接種分)	10バイアル (100回接種分)
備考	冷蔵庫で解凍する場合は、解凍及び希釈を5日以内に行う 室温で解凍する場合は、解凍及び希釈を2時間以内に行う 希釈後、室温で6時間	希釈不要 (一度針をさしたもので以降) 室温で6時間 2～8℃で48時間	希釈不要 (一度針をさしたもので以降) 2～25℃で6時間(解凍後の再凍結は不可)
医療機関への配送	ファイザー社	地域担当卸	地域担当卸

- 今後予定される武田/モデルナ社ワクチンを適切に保管・管理できるよう、**低温冷凍庫（-20℃対応：据置型）**の配付準備を開始。
- 国が確保した冷凍庫について、**各自治体の人口規模に応じ可能な限り公平になるよう割当て**を行う。
- 4月2日に発出した事務連絡に関し、武田/モデルナ社ワクチン用の低温冷凍庫（-20℃対応：据え置き型）の配置先については、武田/モデルナ社ワクチンを取り扱う意向や、取り扱う場合の接種可能量なども踏まえて決定いただきたい。例えば、ファイザー社のワクチンの基本型接種施設になることは難しいが接種可能数が多い医療機関に新たに設置することなども想定される。

「低温冷凍庫（-20℃対応：据置型）の割当て等について」抜粋

（令和3年4月2日厚生労働省健康局健康課予防接種室事務連絡）

（1）市区町村の割り当て台数等について

武田/モデルナ社のワクチンを適切に保管・管理できるよう、低温冷凍庫（-20℃対応：据置型）（略）を、全ての市区町村に対して最低1台割り当てるとともに、可能な限り公平になるよう人口規模に応じて追加の割り当て（略）。

ア 配送先登録について

（ア）提出期限：4月19日（月）※期限以降は毎週金曜日を目途に追加報告を受け付ける。ただし、至急の変更報告などは逐次連絡いただきたい。

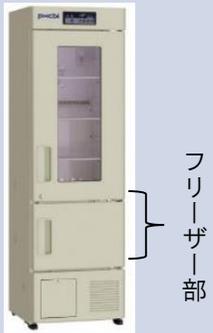
イ 配送予定について

配置先リストの登録状況に応じ、5月～6月中にかけて配送を行う予定。配送予定日については随時通知する。

ウ 配置先検討にあたって

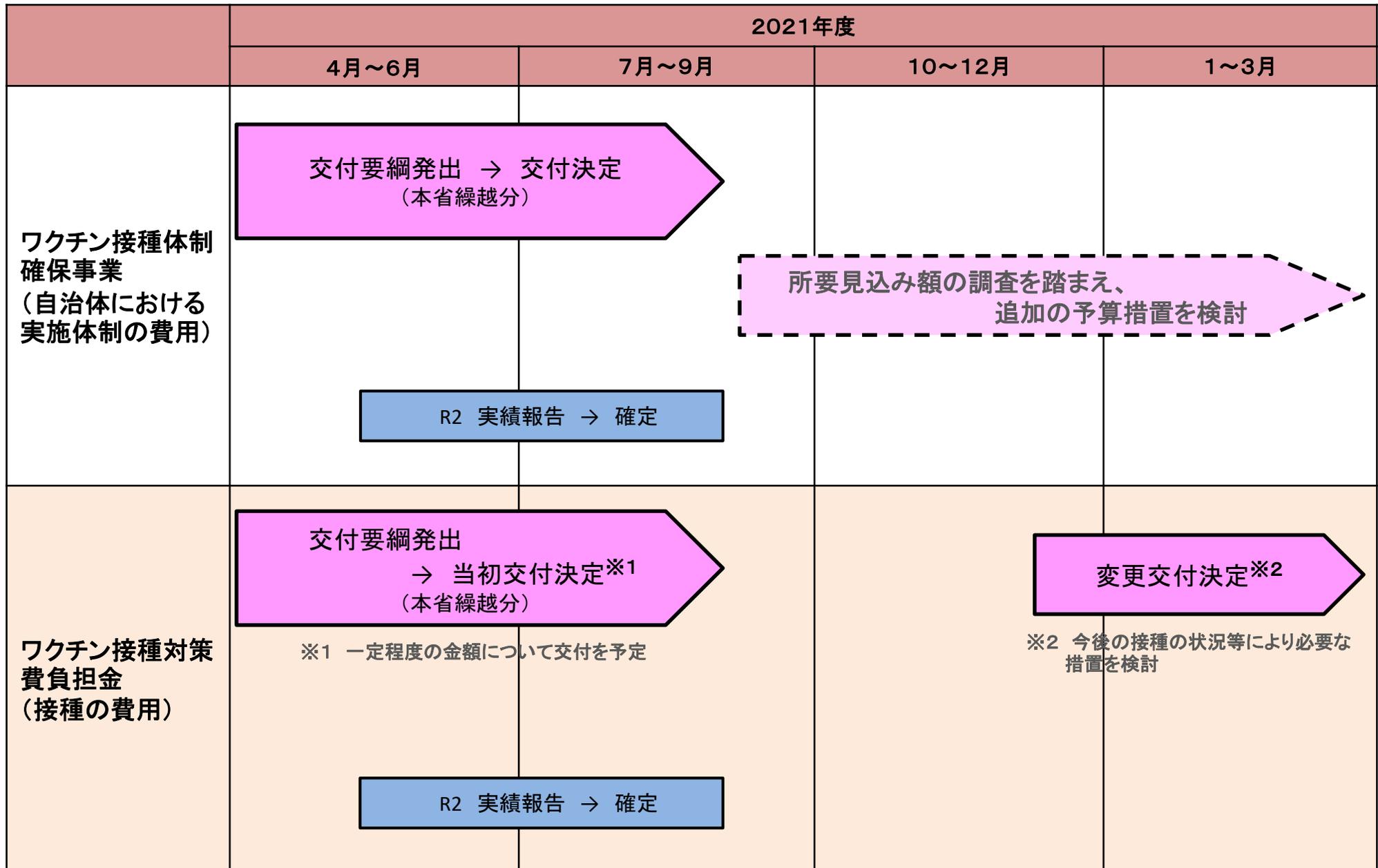
（略）接種実施医療機関等で取り扱うワクチンは、1施設につき1種類にすることを原則とするが、各ワクチンの取り扱いを明確に区別した上で、1会場で複数種類のワクチンを取り扱うことは許容されるものである。また、1会場で両方のワクチンを取り扱う場合、ファイザー社製ワクチン保管用の超低温冷凍庫に加え、武田/モデルナ社製ワクチン保管用低温冷凍庫を設置することになるため、同一電源に接続をせず、それぞれ必要な電力の確保を行うよう十分に留意すること。

武田/モデルナワクチン収納可能数

メーカー	PHC	日本フリーザー	EBAC	ツインバード
製品写真	 <p>フリーザー部</p>			
内寸	フリーザー部 W420×D342×H267	1-3段目 W350×D360×H135 4段目 W350×D220×H135	W490×D330×H422	W335×D225×H340
バイアル箱	<p>W126×D51×H60</p> 			
収納可能数	72箱	100箱 〔 1-3段目 28箱×3 4段目 16箱 〕	126箱	40箱
<p>※内寸から割り出した最大値であり、誤差があり得る。</p>				

1. スケジュール
2. ワクチン分配
3. 安全なワクチン接種に向けた取組
4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)
5. 国民への情報発信
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務
7. **令和3年度の交付申請**
8. 各自治体の準備状況

新型コロナウイルスワクチンに係る補助金・負担金のスケジュール



1. スケジュール
2. ワクチン分配
3. 安全なワクチン接種に向けた取組
4. 副反応に係る情報(先行接種者健康調査の中間報告含む)
5. 国民への情報発信
6. 住民への接種体制の確保・接種に係る事務
7. 令和3年度の交付申請
8. **各自治体の準備状況**

○新型コロナワクチンの予防接種の実施計画を各市町村において策定

※ 令和2年10月23日付け健康課長通知に基づき、各自治体の接種開始に向けた進捗状況について調査を実施。4月12日以降順次実施される高齢者向けの予防接種に向けた各自治体における実施計画の策定に資するよう、3月8日付事務連絡「予防接種実施計画の作成等の状況について」において、先行的に取り組んでいる自治体の状況をお示するとともに、3月5日、3月17日、3月25日の各時点における全自治体の状況について調査結果を公表してきた。

引き続き、各自治体の状況の詳細を把握の上(＊)、厚生労働省HPで随時更新・情報提供予定。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_notifications.html)

※ また、自治体サポートチームで個別自治体に回答したQ&Aを、都道府県を通じて全国の市町村にも「速報Q&A」として、週2回程度情報提供しており、引き続き、こちらも計画策定の参考としてください。

地域の実情により様々な接種体制の構築が考えられる

特設会場における
接種の体制確保

特設会場における接種と医療機関での
接種を併せた体制確保

医療機関での接種を
中心とした体制確保

いずれの場合でも、人口に見合ったペースでの接種に
必要な体制の確保を図るよう、各自治体において準備を行う

※冷凍保存のワクチンについては、ディープフリーザーの配置場所を並行して検討する必要がある。

- ディープフリーザーは国で調達することから、各自治体の配置予定場所について、決定状況を毎月国に報告。
 - ・ 3月19日まで→少なくとも、4月設置分までの配置場所について決定が必要(済)
 - ・ 4月19日まで→少なくとも、5月設置分の配置場所について決定が必要

注：翌々月以降設置分の配置場所については、決定している範囲で登録する(未定での登録も可能)。

1. 接種対象者の概数

- 医療従事者等（都道府県で把握・・・総人口の3%）
- 高齢者数（住民基本台帳年齢階級別人口の65歳以上）
- 基礎疾患を有する者（総人口の8.2%（20-64歳の場合））
- 高齢者施設等従事者（総人口の1.6%）
- 上記以外の者

2. 接種体制

（1）会場の設置

ア：医療機関等で行う場合（実施医療機関、接種可能件数、物資等の確保）

イ：自治体が設置する会場で行う場合（実施施設、接種可能件数、医療者・物資の確保・管理）

ウ：巡回等による場合（実施施設、医療者・物資の確保・管理）

（2）対象者ごとの調整事項

- 医療従事者の場合 ※都道府県が調整するため市町村は必須ではない
 - ①医療機関において接種を受ける場合
 - ・自施設で行う場合（医療機関、件数、医療者・物資等の確保）
 - ・他施設で行う場合（対象者、接種先医療機関）
 - ②医療機関外において接種を受ける場合
 - ・会場で行う場合（会場、件数、医療者・物資等の確保）
 - ③その他

● 高齢者の場合

①高齢者施設入所者の場合

- ・自施設で行う場合（対象施設、件数、医療者・物資の確保・管理）
- ・その他の施設等で行う場合（移動手段）

②在宅の要介護者等の場合

- ・（ア）の場合（移動手段）
- ・（イ）（ウ）の場合（往診等を行う実施医療機関、件数、移動手段、物資の確保・管理）

③一般の高齢者（自立可能）の場合

※（1）に加えた特記事項

● 基礎疾患を有する者の場合

※（1）に加えた特記事項

● 高齢者施設等従事者の場合

- ・自施設で行う場合（対象施設）
- ・各自で接種する場合

● 一般住民の場合

※（1）に加えた特記事項

3. 接種時期に実施すべき対応

- 住民に対する情報提供
- 接種医療機関の周知（時期・方法）
- コールセンター（時期・場所・必要人員・物資等確保の方法）
- 副反応等に対する対応方法（住民への事前の情報提供・副反応が生じたときの相談先等）

- 接種開始に向けて必要な支援ができるよう、以下の準備工程について市町村ごとの進捗状況調査を実施（これまでに3月5日時点、17日時点、25日時点の3回実施）。
- 厚生労働省HPにおいて、結果を公表（次頁で結果概要）

《調査項目一覧》

○高齢者の接種予定者数

○住民向け接種の進捗状況

・接種会場選定の進捗状況

各市区町村の一般の高齢者向け接種の接種会場の形態

(1) 特設会場の数

①特設会場となる保健所、保健センターの数

②特設会場となる学校の数

③特設会場となる公民館の数

④特設会場となるその他の施設の数

(2) 集団接種を中心に行う医療機関（診療所等）数

(3) 個別接種を中心に行う医療機関（病院等）数

(4) 集団接種と個別接種を混合して行う医療機関数

○住民向け接種の進捗状況（続き）

・高齢者接種に係る業務を行う医師等の確保状況

(1) 特設会場で接種を行う医師数 ①保健所、保健センターで接種を行う医師数

②学校で接種を行う医師数

③公民館で接種を行う医師数

④その他で接種を行う医師数

(2) 集団接種を中心に行う医療機関（診療所等）で接種を行う医師数

(3) 個別接種を中心に行う医療機関（病院等）で接種を行う医師数

(4) 集団接種と個別接種を混合して行う医療機関で接種を行う医師数

(5) 各会場における医師の充足感 ※3/17時点より看護師・事務職員等についても調査

・高齢者分の接種券の発送開始日（段階的発送の有無）

・高齢者接種の1回目の開始予定時期

ワクチン接種開始に向けた進捗状況調査②

【3月25日時点調査の結果概要】 計画本体・計画概要等を公表済み：300自治体、シミュレーション実施済み又は実施予定：527自治体

- 全1,741自治体のうち、
 - ・ **高齢者向け接種の接種会場の形態・箇所数が1つ以上決まっている自治体は1,705自治体（全体の97.9%）**
 - ・ 各会場において配置する…
 - **医師が1人以上確保できると見込んでいる自治体は1,628自治体（93.5%）**
 - **看護師が1人以上確保できると見込んでいる自治体は1,590自治体（91.3%）**
 - **事務職員等が1人以上確保できると見込んでいる自治体は1,589自治体（91.2%）**
- 高齢者分の接種券の発送開始日については、
 - ・ **1,582自治体（90.9%）がおおよその時期を確定**（1029自治体（59.1%）は具体の発送日まで確定）。
 - **具体の発送時期**については、**4月23日**と回答した自治体数が**144自治体（8.3%）**と最も多い。
 - ・ 接種券を**段階的に送付**する自治体は**750自治体（43.1%）**。
- 高齢者接種のスケジュールについて、
 - ・ **1回目接種の開始予定時期**については、**5月10日**と回答した自治体が**111自治体（6.4%）**と最も多い。
（日付でない回答の中では、5月10日の週が202自治体（11.6%）と最も多い。）

【形態別の接種会場数（箇所）】

接種会場計		41,448
特設会場の数	特設会場計	4,065
	(1)保健所、保健センター	694
	(2)学校	517
	(3)公民館	838
	(4)その他の施設	2,018
集団接種を行う医療機関数		1,480
個別接種を行う医療機関数		35,903

【会場形態別の医師数及び医師の充足感】 ※看護師及び事務職員等についても同様の項目を調査

		数(全自治体計：人) ※1	充足感（選択肢別自治体数割合：%） ※2
特設会場の数	(1)保健所、保健センター	4,570	(1) 39.3%、(2) 18.8%、(3) 41.9%
	(2)学校	757	(1) 39.6%、(2) 17.7%、(3) 42.7%
	(3)公民館	2,417	(1) 39.7%、(2) 18.1%、(3) 42.2%
	(4)その他の施設	9,872	(1) 37.4%、(2) 17.7%、(3) 44.8%
集団接種を行う医療機関数		2,354	(1) 44.0%、(2) 14.1%、(3) 41.9%
個別接種を行う医療機関数		26,441	(1) 49.4%、(2) 12.8%、(3) 37.8%

※1 同一の者が複数の会場で業務を行う場合は、各会場において、それぞれ計上している。（1人の医師が3つの会場で業務を行う場合、計3人分を計上。）

※2 (1)充足している、(2)不足している、(3)必要人数を検討中の3段階から選択。

1. 新型コロナウイルスワクチンの接種体制確保について⑤

ワクチンの分配と使用用途制限緩和等について

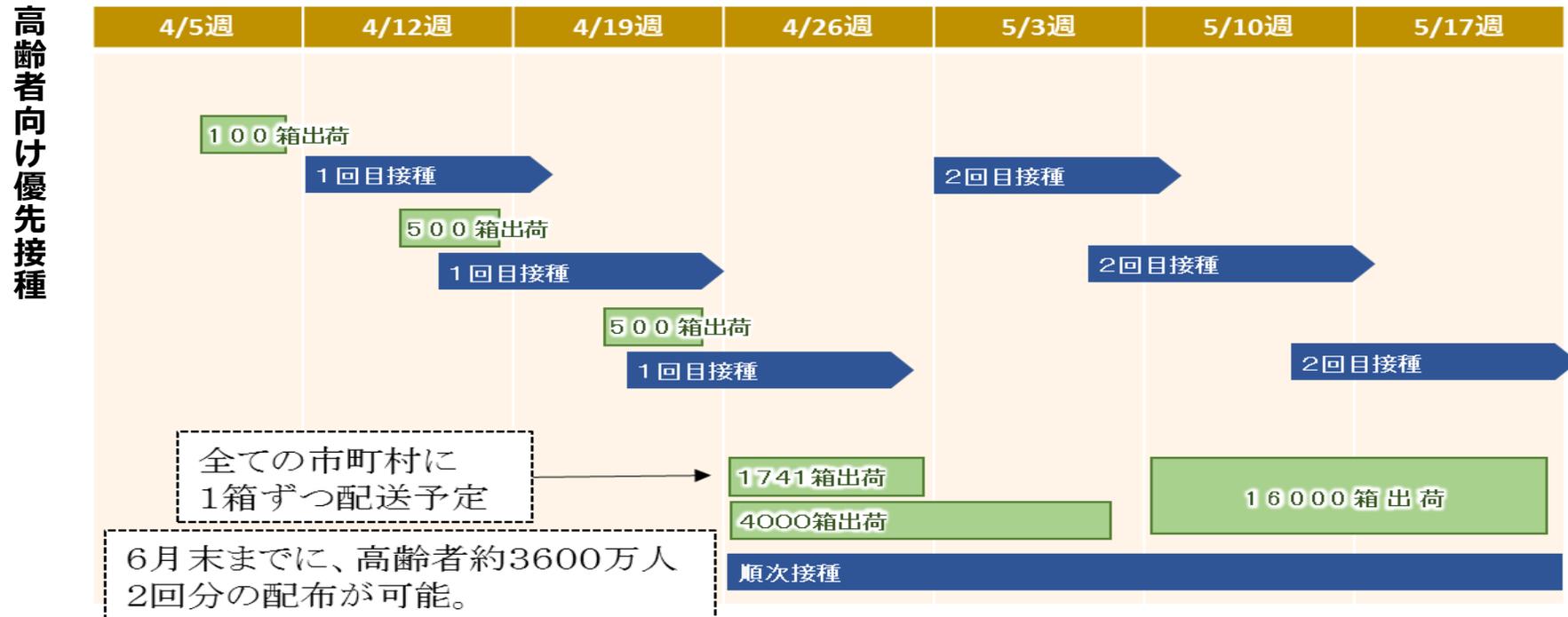
2. V-SYSについて⑤

住民への接種に向けた供給見通し

- ・ 4/5の週 100箱（各都道府県 2箱、東京・神奈川・大阪は4箱）
- ・ 4/12の週 500箱（各都道府県10箱、東京・神奈川・大阪は20箱）
- ・ 4/19の週 500箱（各都道府県10箱、東京・神奈川・大阪は20箱）
- ・ 4/26の週 1,741箱（全ての市区町村に1箱）
- ・ 5/9までに 4,000箱
- ・ 5/10の週と5/17の週の合計 16,000箱
- ・ 5/24の週と5/31の週の合計 16,000箱以上
- ・ 以降も、各クール2週間かけて、同程度の量の出荷を行う。
- ・ **6月末まで 高齢者約3,600万人の2回接種分の配布が可能**

新型コロナワクチン配送スケジュール

令和3年4月8日時点



基本型接種施設と連携型／サテライト型接種施設の変更等について

基本型接種施設とは

○ ファイザーワクチン用ディープフリーザーが設置されており、ワクチンがファイザー社から冷凍で直接配送され、接種を行う医療機関等の施設

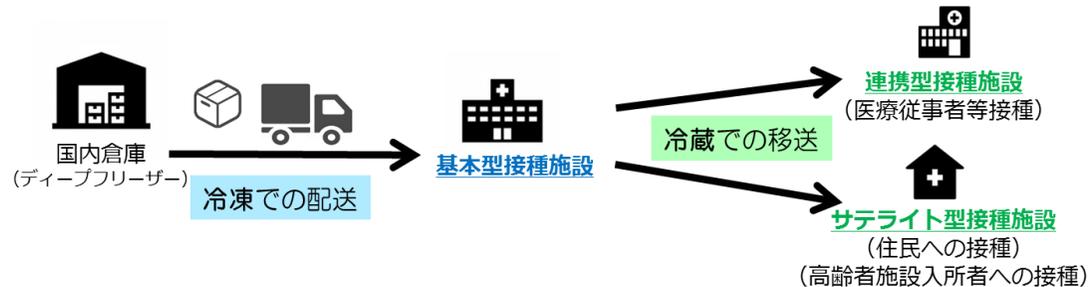
※ファイザーワクチン用ディープフリーザーの配備が完了するまでの間は、ディープフリーザーがなくても、保冷バックでワクチンを保管することで基本型接種施設になれる。

連携型接種施設とは

○ 医療従事者等への接種に当たり、基本型施設から冷蔵でワクチンの移送を受け接種を行う医療機関等の施設。(ファイザーワクチン用ディープフリーザーが設置されていても連携型接種施設になれる。)

サテライト型接種施設とは

○ 住民への接種に当たり、基本型施設から冷蔵でワクチンの移送を受け接種を行う医療機関等の施設。(ファイザーワクチン用ディープフリーザーが設置されていてもサテライト型接種施設になれる。)



<施設類型の変更可否の考え方>

- ① **基本型から連携型/サテライト型へ変更できる場合〔自施設〕**
 - ア) 基本型として登録していた間に、一度もワクチンの配分を受けていない場合
 - イ) 配分されたワクチンの在庫がない場合
- ② **連携型/サテライト型から基本型へ変更できる場合〔自施設〕**
 - ア) 連携型/サテライト型として登録していた間に、一度もワクチンの配分を受けていない場合
 - イ) 配分されたワクチンの在庫がない場合
- ③ **連携型/サテライト型が提携する基本型接種施設の変更〔提携先〕**

既に基本型接種施設から移送されたワクチンを全て使い切り、在庫がない場合は、提携する移送元の基本型接種施設の変更が可能

左記①イ及び②イについて、

- ・医療従事者等向けは、4月12日の週の配送
- ・高齢者向けは、4月26日の週の配送から適用予定。

その他については、既に適用済み。

小分けの運用については、①ワクチンのトレーサビリティの確保及び、②システムの設計と運用方法の不一致による混乱の回避にも留意が必要。

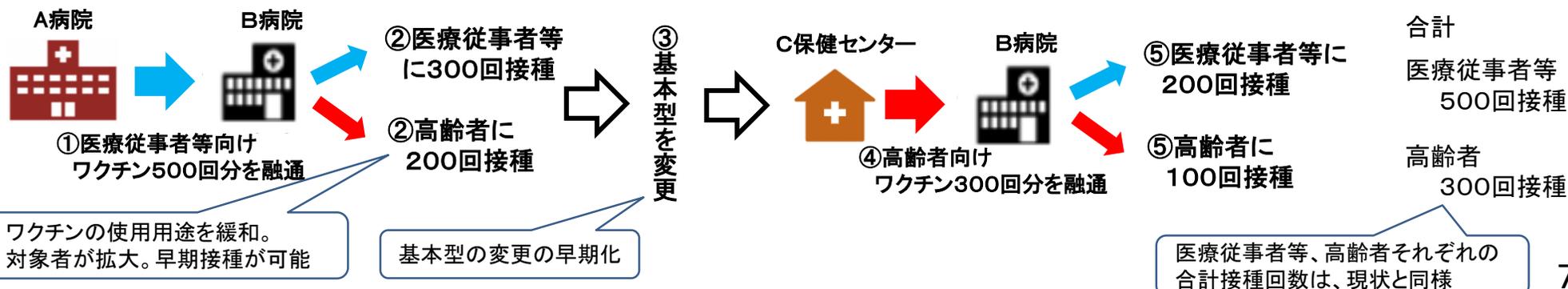
ワクチンの使用用途制限の緩和について

- 連携型接種施設/サテライト型接種施設から基本型接種施設への変更にあたり、ワクチン配送日までに在庫がないことが条件であることから、早期に変更できるようワクチンの使用用途を柔軟化する。
- 4月12日から、「医療従事者等向け接種」と「高齢者向けの接種」のいずれの用途となっているかにかかわらず、どちらにも接種できるとの緩和を行うことにより、医療従事者向け接種と高齢者向け接種を同時並行で進められるようにする。
ただし、それぞれの優先接種が確実に行われるよう、融通するワクチン量及びスケジュール等について、都道府県と市町村で調整すること。

【現状】医療従事者向け接種が終了しないと、分配元の基本型を変更できず、高齢者向けワクチンの融通を受けられない。

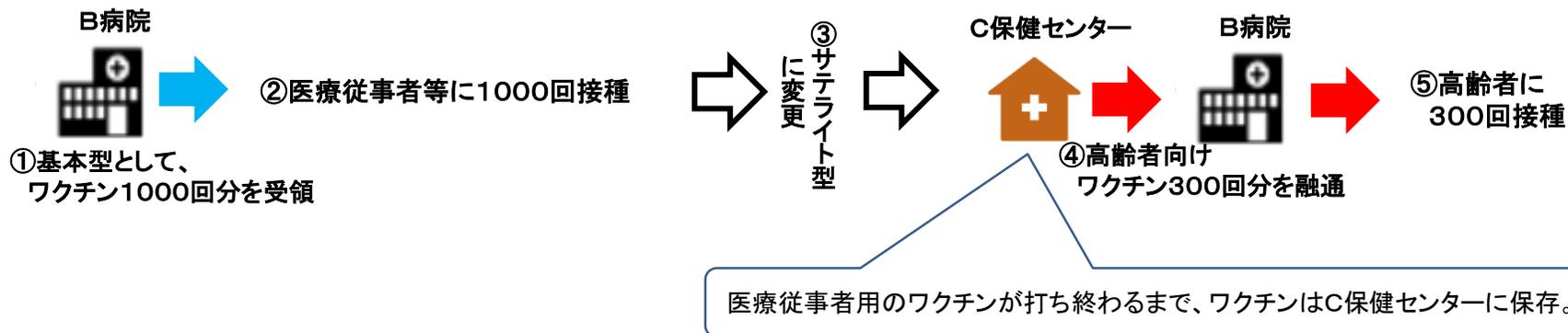


【見直し後 ①の場合】医療従事者接種が終了していなくても、分配元の基本型を変更することが可能となり、高齢者向けワクチンの融通が受けられる。

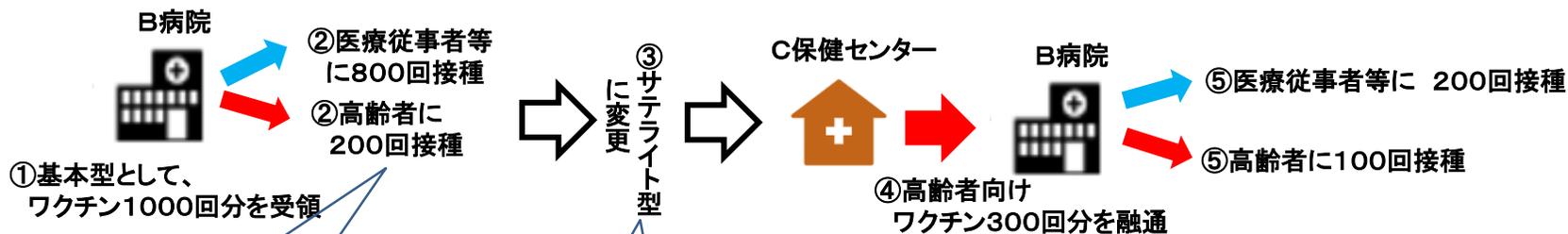


例1) 4月19日の週に、医療従事者用を基本型として1000回分、高齢者用をサテライト型として300回分受け取りたい場合

【現状】医療従事者向け接種が終了しないと、サテライト型に変更できず、高齢者向けワクチンの融通を受けられない。



【見直し後 ①の場合】医療従事者接種が終了しなくても、サテライト型に変更することが可能となり、高齢者向けワクチンの融通が受けられる。



ワクチンの使用用途を緩和。対象者が拡大。早期接種が可能

基本型の変更の早期化

合計
医療従事者等
1000回接種

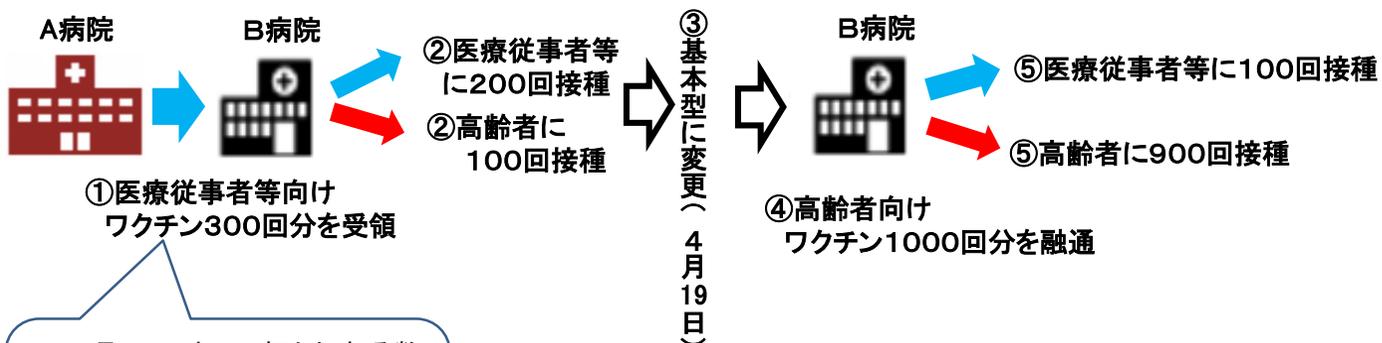
高齢者
300回接種

例2) 4月12日の週に、医療従事者用を連携型として300回分、
4月19日の週に、高齢者用を基本型として1000回分受け取りたい場合

【現状】ワクチンの用途が限定されるため、2回の施設類型変更が必要となる。



【見直し後 ①の場合】ワクチンの用途制限が緩和により、1回の施設類型変更で対応できる可能性



合計
医療従事者等
300回接種
高齢者
1000回接種